

安息日聖書教科

マルコ書からの教訓

Lars Justina

Vol. 96 No.4

2020年10月-12月

目次

1. イエス・キリストの福音の始まり	5
2. 神聖な教師	10
3. 奇跡を働かれるお方	15
4. 精神を癒す	20
5. キリストの権威	25
6. キリスト、人の僕	31
7. 絶対的な献身への召し	36
8. イエスが沈黙をお命じになったとき	41
9. だれがイエスを受け入れるか?	46
10. イエスがご自分の御国について語られる	52
11. 御国へ導き入れる	57
12. 友と敵に捨てられる	62
13. 碎かれ、その後よみがえった希望	67

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

セブンスデーアドベンチスト改革運動世界総会安息日学校部 (P.O.Box 7240 Roanoke, Virginia 24019-0240, U.S.A.)

安息日聖書教科 Vol.96, No.3

編集&発行:
S D A改革運動日本ミッション

〒368-0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607-1

TEL : (0494) 22-0465

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.com

イラスト : Good Salt on the front cover; Map Resources on pp. 4, 30, 72.

まえがき

マルコ書は、ヨハネ・マルコによって記されました。彼はパウロやバルナバと旅行しました。

「バルナバ自身も『クプロ生れ』で、彼は自分の親戚にあたるヨハネ・マルコを連れて、パウロと共に、伝道地であるこの島をたずねた（使徒行伝 4:36）。マルコの母はキリスト教に改宗していて、エルサレムにある彼女の家は、弟子たちのための隠れ場であった。そこに行けば、彼らはいつでも必ず歓迎され、しばらくの休息が与えられた。マルコが伝道旅行に加わりたいたと、パウロとバルナバに申し出たのも、使徒たちが母の家をたずねたときのことであった。彼は心に神の恩寵を感じて、福音伝道の働きに自分のすべてをささげたいと望んだ。」（患難から栄光へ上巻 178, 179)

マルコが最初にバルナバやパウロと旅行を始めたときは、働きが自分には大きすぎるのがわかり、家に戻りました。彼がもう一度やってみようと戻ってきたとき、パウロは彼と働くことを拒否しました。しかし、パウロは後にマルコについての自分の考えを変えて、彼がテモテに告げたように助けになることがわかりました。「マルコを連れて、一緒にきなさい。彼はわたしの務のために役に立つから」（テモテ第二 4:11）。

マルコはまたペテロともすぐそばで働きました（ペテロ第一 5:13）。ペテロがマルコに詳しく自分自身の経験を述べたと信じられています。マルコは自分自身で目撃したわけではありませんでしたが、イエスについてのペテロの記憶を記録しました。マルコの福音書の提示は、他の三つの書よりもはるかに簡潔です。マルコは自分の語り口を、「神の子イエス・キリストの福音のはじめ」という言葉と共に始めています。彼は直ちにイエスを神の御子として信じる自分の信仰を告白しています。

「人類の救い主は罪に呪われた邪悪な世界で、身分の低い両親からお生まれになった。このお方はガリラヤの小さな町であるナザレで人知れず成長された。このお方は貧しさの中で、世俗的な地位を持たずに働きを開始された。このお方は世の崇敬や称賛をお求めにならなかった。このお方は身分の低い者の間で住まわれた。外面的には全く、ただのつつましい人であり、ほとんど友がいなかった。こうして神は多くの人々がこの時代に同じ福音を宣布するのに賢明だと考える方法とはまったく異なる方法で福音を紹介された。…」

神の御国は、外面的なみせびらかしをもっておとずれることはない。神の恵みの福音は、自製の精神をともなっており、世の精神とは決して調和することができない。」（レビュ・アンド・ヘラルド 1906 年 1 月 18 日)

主がわたしたちを助けて下さり、わたしたちが今期の教科を学んで行くにつれ、今日さらに多くの恵みの福音をわたしたちの心と生活の中に受け入れることができますように。

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金

フランス・サヴィニー・シュロルジュの本部のために

フランス、ベルギー、スイスは合わせて 8700 万人の人口を持ち、西ヨーロッパにおいて、影響力の大きい地域となっています。SDA 改革運動は、フランスに存在するようになってから、何十年か立ちました。第二次世界大戦中、わたしたちの兄弟たちはここで、悪名高いグルの強制収容所における犠牲者として恐ろしい状況下で苦しんだ人々の中にいました。それでも神の恵みにより、メッセージはもちこたえ、今日フランスと、またスイスやベルギーと共に、SDARM フランス・フィールドを形成しています。



パリ郊外にあるサヴィニー・シュロルジュにある地所に建てられた建物は、フィールドの本部として使用され、拡張の必要に迫られています。1991 年、惜しめない献金により、その数年前に購入されたこの地所に礼拝堂が建設されました。神のみ助けにより、いまだに 1260 年の迫害の期間から引きずっている無神論とカトリックの考えに非常にとらわれているフランスの人々の扱いにくいものの考え方にも関わらず、神のみ働きは発達してきました。ルターの数年後には、人口の半分がプロテスタントだったことを思い起こしてみてください。しかし、迫害のゆえに、多くの忠実な民が、自分の信仰のゆえに死ぬか（拷問、車輪、火刑、ガレー船、投獄などにより）、あるいはスイスやドイツ、オランダ、また新世界（米国やカナダ）など、より友好的な国々に逃亡するかのいずれかでした。

それにもかかわらず、今なお、欺かれているまじめな魂や主の側に立つために光を受けたいと熱望している魂が数多くいます。そのため、わたしたちは非常に必要とされているこの拡張を実現し、これらの魂に伝えるより良い準備をするために、皆さんの惜しめない資金的な援助をお願いいたします。

海外やフランスの非都市州からすでにこの働きにおいて多くの助けがありました。ここにはフランスの海外領土から、またルーマニア、ブラジル、ポルトガル、コンゴ、モルドバ、またその他様々な国々からの兄弟たちがいます。この文化的な多様性は本当に祝福です。なぜなら、それはわたしたちに親交を深めさせ、しばしば打ち破るのが難しく、メッセージをゆがめる可能性のある文化的な伝統を越えて、ますます基礎的な聖書に基づく諸原則に固く立たせてくれるからです。永遠の福音が、「地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝え」られるようにしようではありませんか（黙示録 14:6）。共に、これを実現しましょう！

フランス・フィールドより、皆さんにあらかじめ感謝いたします。

イエス・キリストの福音の始まり

「ヨハネが捕えられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた、『時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ。』」（マルコ 1:14, 15）

「武力の誇示もみられなければ、牢獄のとびらの破壊もなく、ただ病人をいやすことと、福音を述べ伝えることと、人の魂を高めることがキリストの使命を証拠だてていた。」（教育 178）

推奨文献： 各時代の希望上巻 112-119

日曜日

9月27日

1. 福音の始まり

- a. マルコはキリストの生涯の記述を、どのように始めましたか。彼はすぐにイエスについて何を認めましたか（マルコ 1:1）。
- b. 「福音」が何かを説明しなさい（ローマ 1:16）。

「〔神の〕憐れみといつくしみ深さにはまったく受ける資格がない。キリストの恵みは、罪人の側に功績や主張する資格はないが、惜しみなく義とする。義認とは完全にして欠けることのない許しである。罪人が信仰によってキリストを受け入れる瞬間、その瞬間に彼は許される。キリストの義が彼に着せられる。そして、彼はもはや神の許しの恵みを疑わないのである。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1071）

「人の救いのための神のご計画に欠陥はない。もし福音がすべての魂にとって救いにいたる神の力でないとすれば、それは福音に欠陥があるからではなく、人が実際に信じず、キリストの恵みと義を実際に受け入れないからである。…信徒だと公言する者は、キリストを自分の個人的な救い主をそのまま信じず、イエスから遠く離れている。」（この日を神と共に 18）

2. キリストの先駆け

a. バプテスマのヨハネの働きは何でしたか (マルコ 1:2; ルカ 1:17)。

「この地上歴史のすべての段階において、神はご自分の働きを進めるご自分の代理人を持っておられる。その働きはこのお方の決めたとおりに進められなければならない。バプテスマのヨハネはすべての働きをもっていた。そのために彼は生まれ、任命されていた—それは主の道を備える働きであった。…彼の荒野での伝道はもつとも顕著な文字通りの預言の成就であった。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1115)

「バプテスマのヨハネを、主はご自身のために主の道を備える使命者としてお立てになった。彼は世に対して、罪を譴責し、責める断固とした証を担うのであった。」(セクレット・メッセージ 2 巻 147)

「キリストの再臨に先駆けて知らせるわたしたちの働きは、キリストの初臨においてキリストの先駆けであったバプテスマのヨハネの働きに似ている。わたしたちは世に対して、『主の大いなる日は近い』『あなたがたの神に会う備えをせよ』というメッセージを宣布しなければならない。わたしたちはこれまでしてきたよりもずっと多くのことをしなければならない。」(キリストを映して 201)

b. ヨハネのメッセージは何でしたか。彼のメッセージを聞きにだれが来ましたか (マルコ 1:3-5)。

c. ヨハネは、だれに人々の注意を向けましたか。ヨハネの働きは、どのようにメシヤの来臨の働きとは違いましたか (6-8 節)。

「ヨハネは自分の弟子たちに、イエスが約束のメシヤ、世の救い主であると知らせた。ヨハネの働きが終わりに近づいたとき、彼は弟子たちに、イエスを大教師として仰いで、これに従うように教えた。ヨハネの一生は、悲しみと犠牲に満ちていた。彼はキリストの初臨を先ぶれしたが、キリストの奇跡を目に見、キリストによってあらわされる力を受けることはゆるされなかった。イエスが教師として立ちたもうときには、自分は死なねばならないことがヨハネにはわかっていた。ヨハネの声は、荒野よりほかにはほとんど聞かれなかった。彼の一生は孤独だった。彼は、父親の家庭で家族との交わりを楽しむことに執着しないで、使命を果たすために家族を離れた。多くの人々が忙しい町や村を離れて、この不思議な預言者のことばをきくために荒野へ集まってきた。ヨハネは木の根元におのを置いた。彼は結果をおそれずに罪を責め、神の小羊キリストのために道を備えた。」(初代文集 267, 268)

3. 救い主がバプテスマを受けられた

a. イエスは何のためにヨハネに会いに来られましたか (マルコ 1:9)。

「イエスがバプテスマを受けにおいでになった時、ヨハネはイエスのうちにこれまでどんな人にもみだことのない純潔な品性をみとめた。……こんなに神聖な雰囲気をつただよわせている人にはこれまで会ったことがなかった。こうしたことはすべてメシヤについてヨハネに示されていたところと一致していた。しかしヨハネはイエスのためににんざすることをつちうちした。罪人である自分がどうして罪のないおかたにバプテスマを施すことができようか。悔い改める必要のないおかたが、不義を告白して洗いきよめる儀式をどうしてお受けになることがあろうか。

イエスがバプテスマをつたのまれると、ヨハネはおしとどめて『わたしこそあなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたがわたしのところにおいでになるのですか』と叫んだ (マタイ 3:14)。イエスは、きつぱりとしかしやさしい威厳をもって、『今は受けさせてもらいたい。このように、すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである』と答えられた (マタイ 3:15)。そこでヨハネは譲歩して、救い主をつヨルダン川にみちびき、水の下に沈めた。」(各時代の希望上巻 113, 114)

b. イエスのバプテスマの時に聖霊は、一また父なる神も同様に一どのようにご自身を現されましたか (10 節)。

「主は、ヨハネにどなたがメシヤかがわかるしるしを与えると約束しておられた。そして今イエスが水辺に来られるとき、約束されたしるしが与えられた。なぜなら、彼は天が開けて、神の御霊が金色に輝くはどのようにキリストの頭上にとどまるのを見て、天から『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなうものである』と言うみ声が届いたからである。…

罪のゆえに、地は天から切り離されていた。しかし、キリストはご自分の人性のみ腕をもって墮落した人類をいだき、またご自分の神性のみ腕をもって無限のお方の御座をつかんでおられる。そして地は天の恩寵へと入れられ、人は神との交わりに入れられるのである。失われた人類のためのキリストの祈りは、サタンが人と神の間に投げかけたすべての影を通して道を切り開き、栄光の御座そのものへ通じる通信のはっきりとした通路を残した。門は開けはなたれ、天は開かれた。そして神の御霊が、はとのかたちをして、キリストの頭上をとりかこみ、神のみ声が次のようにいうのが聞かれた、『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなうものである』。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1078)

4. 荒野に導かれる

- a. バプテスマの後、イエスはただちにどこへ行かれましたか（マルコ 1:12）。なぜですか。

「なぜキリストが公生涯を始められたときに、試みられるために荒野へ導かれたのであろうか。…このお方は自分自身のために行かれたのではなかった。そうではなく、わたしたちに代わって、わたしたちのために勝利するために行かれたのである。…このお方は人類の代表として試され、テストされるのであった。このお方は個人的に敵と対面し、この世の王国の頭だと主張する者を投げ落とされるのであった。…

わたしたちの救い主はあらゆる点において誘惑のテストに耐え、この方法によって、人が打ち勝つことを可能にされたのである。」（彼を知るために 32）

「イエスが試みられるために荒野へみちびかれた時、彼は神のみたまによってみちびかれたのであった。イエスはご自分から試みを招かれなかった。イエスが荒野へ行かれたのは、ひとりになって、ご自分の使命と働きとを熟考するためであった。断食と祈りとによって、イエスはご自分がたどらねばならない血みどろの道のために、準備されるのであった。しかしサタンは、救い主が荒野へ行かれたことを知って、これこそイエスに近づく最上の時だと思った。」（各時代の希望上巻 120）

- b. イエスが荒野におられたとき、このお方は何と戦わなければなりませんでしたか。神はこのお方をどのように助けられましたか（13 節）。

「屈する可能性がなければ、誘惑は誘惑ではない。人が悪い行動へと強力な感化を受けるときに、誘惑に抵抗する。そしてそれができることを知りながら、信仰によって、神聖なみ腕をしっかりとつかむことによって抵抗する。これがキリストの通られた苦しい体験であった。」（セクレット・メッセージ 3 巻 132）

- c. 神はわたしたちの必要な時に、どのように助けると約束しておられますか（詩篇 91:11; 34:7）。

「〔神の〕御使たちはわたしたちを見守るように任命されている。そしてもしわたしたちが自らを彼らの保護下におくならば、そのときあらゆる危険時に、彼らがわたしたちの右側にいるのである。気づかずに悪い感化を及ぼしそうになると、御使たちがわたしたちのかたわらにあつて、よりよい道へと促し、わたしたちのための言葉を選び、わたしたちの行動に感化を与える。こうしてわたしたちの感化力はしずかで無意識であるが、他の人々をキリストと天の国へ導く強力な力となるのである。」（今日のわたしの生涯 302）

5. ヨハネのメッセージをさらに詳しく述べる

- a. ヨハネが自分の使命をなし遂げた後、イエスはどのメッセージを宣布し始められましたか？それはなぜですか（マルコ 1:14, 15）。

「このように、救い主ご自身によって与えられた福音のメッセージは、預言に基づいていた。イエスが『時は満ちた』と宣言されたその『時』は、天使ガブリエルによってダニエルに知らされた期間のことであった。『……エルサレムを建て直せという命令が出てから、メシヤなるひとりの君が来るまで、七週と六十二週あることを知り、かつ悟りなさい』、つまり 69 週、すなわち 483 年である（ダニエル書 9:25）。エルサレム再建の命令は、アルタシャスタ・ロンギマナスの布告によって完結されたが、それは紀元前 457 年の秋に発効した（エズラ記 6:14; 7:1, 英訳聖書注、9 参照）。この時からかぞえて、483 年は、紀元 27 年に当る。預言によれば、この期間はあぶらそそがれたおかたメシヤに及ぶことになっていた。紀元 27 年に、イエスは、バプテスマの時、聖霊のあぶらを受け、その後すぐに公生涯におはいりになった。そのとき、『時は満ちた』とのメッセージが宣伝されたのであった。」（各時代の希望上巻 286, 287）

「キリストご自身がユダヤ制度の創始者、高価な宮の基礎そのもの、すべての犠牲の儀式が指し示していた本体であられた。ユダヤ人たちは、キリストの来臨を一見切望して見張っていた。学者たち、すなわち律法に通じ、このお方の来臨に関する預言者たちの宣言に精通している者たちは、預言的な歴史から、このお方の来臨を待ち望む時は満ちたことを知っていた。」（預言の霊 3 巻 35）

個人的な復習問題

1. 神はいつわたしたちをお許しになりますか。この許しは、どれくらい完全ですか。
2. バプテスマのヨハネの特別な働きは、何でしたか。今日、わたしたちの働きは何ですか。
3. イエスのバプテスマのときに、何が起こりましたか。なぜこれが重要だったのですか。
4. キリストは、どのように荒野におけるご自分の経験の間、わたしたちのために勝利して下さいましたか。これは何を意味しますか。
5. イエスは時が満ちたと言われたとき、何を意味しておられましたか。このお方はどの時を言及しておられたのですか。

神聖な教師

「先生、わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています。神がご一緒でないなら、あなたがなさっておられるようなしるしは、だれにもできはしません。」(ヨハネ 3:2)

「天よりの教師であるイエス……が人間の性質をおとりになった目的は、ご自分がおつくりになったものに救いと幸福をもたらすことによって、彼らに対する神のあわれみと愛と恵みを人類に示すためにほかならなかった。この目的のために彼は死なれたのである。……主は、毎日でしたちの前に人類の祝福となる働きをなし、墮落した人類に対する彼の柔和と愛をお示しになった。彼の心はつきぬ愛の泉であって、切望している心はそこから生命の水を受けることができる。」(安息日学校への勧告 121-122)

推奨文献： 各時代の希望中巻 69-72, 198-205; 下巻 47-49

日曜日

10月4日

1. 教師とその生徒たち

- a. 弟子たちは、数多くの機会に、イエスに何と呼びかけましたか (マルコ 4:38; 9:38; 13:1)。
- b. イエスはこの肩書きを用いることを、どのようにお認めになりましたか (ヨハネ 13:13)。
- c. イエスは何の目的で、こうなされたのですか (ヨハネ 13:14, 15)。

「キリストははっきりと明瞭に権威と忠誠をうける正当な資格をご自分のものとなされた。『あなたがたはわたしを教師、また主と呼んでいる。そう言うのは正しい。わたしはそのとおりである』。『教師はただひとり、すなわち、キリストである』。こうして、このお方はご自分の御名に属する尊厳と、ご自分が天で持っておられる権威と力を維持された。」(彼を掲げよ 37)

2. 困窮している人が敬意を示す

- a. ヤイロとはだれでしたか。またどのようにイエスに敬意を示しましたか（マルコ 5:22）。

「イエスはしばらく海辺に残って教えたり、いやしたりされてから、取税人たちと一しょに食事をするためにレビ・マタイの家へおいでになった。ここで会堂司（かどうづかさ）のヤイロがイエスをみいだした。

このユダヤ人の長老は非常な苦しみのうちにイエスのみもとにやってくると、その足下に身を投げ出した。」（各時代の希望中巻 69）

- b. なぜヤイロはイエスに会いに来たのですか。彼の信仰は、どれほど大きいものでしたか（マルコ 5:23）。

「イエスはすぐこのつかさといっしょにその家へお出かけになった。弟子たちは、これまで何度かイエスの情深い働きを見てきたが、イエスが高慢なラビの嘆願に応じられたのには驚いた。それでも彼らは、主と同行し、また人々も熱心な、期待に満ちた思いで行った。」（同上）

「キリストは、娘をいやしてくださいと頼みにきたユダヤのラビ、ヤイロの家に行かれる途上だった。『わたしの幼いむすめが死にかかっています。どうぞ、その子がなかって助かりますように、おいでになって、手を置いてやってください』（マルコ 5:23)、との悲しみにくだかれた嘆願は、やさしい同情深いキリストのみ心に触れ、キリストはただちに宰といっしょに彼の家に向かわれた。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 34）

- c. イエスがヤイロの家に向かわれる道中が遅れたので、何が起こりましたか。また、使者がイエスに何と言いましたか（マルコ 5:35）。

「つかさの家は遠くなかったが、群衆が四方から押し合ったので、イエスは同行者たちとゆっくり進んで行かれた。心配な父親は、遅くなるのががまんできなかった。しかしイエスは、人々をあわれんで、時々立ちどまっては病人の苦しみをやわらげたり、心の悩みを慰めたりされた。

彼らがまだ途中にいたときに、ひとりの使者が群衆をおしわけてやってきて、ヤイロに、娘が死んだという知らせを告げ、これ以上主をわずらわせても無益だと言った。そのことばはイエスの耳にはいった。するとイエスは、『恐れることはない。ただ信じなさい。娘は助かるのだ』と言われた（ルカ 8:50）」（各時代の希望中巻 70）

3. ご自分の神性を表される

- a. イエスが到着されたとき、ヤイロの家に、だれが迎え入れられましたか。なぜですか(マルコ 5:37-40)。

「ヤイロは一層イエスの近くによりそい、いっしょに自分の家へ急いだ。家にはすでに雇われた泣き人や笛吹きなどがやってきていて、泣き声や笛の音があたりの空気を満たしていた。群衆がつめかけて騒いでいることが、イエスの気にさわった。イエスは彼らを静めようとして『なぜ泣き騒いでいるのか。子供は死んだのではない。眠っているだけである』と言われた(マルコ 5:39)。人々はこの外来者のことばに憤慨した。彼らは子供が死の胸にいだかれたのを見ていたので、イエスをあざ笑った。イエスはみんな家から出るようにと要求され、少女の父親と母親、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人の弟子をおつれになって、いっしょに死の部屋におはいりになった。」(各時代の希望中巻 70)

- b. どの奇跡が、キリストの神性を裏付けましたか(41, 42 節)。

「イエスは寝床のそばに近づき、ご自分の手に少女の手をおとりになって、彼女の家庭のききなれたことばで、『少女よ、さあ、起きなさい』と静かに宣告された(マルコ 5:41)。

その瞬間、意識のない少女のからだにかすかな動きが伝わった。生命の鼓動がふたたび始まった。くちびるは微笑にほころびた。あたかも眠りからさめたように両眼をぱっちり開くと、少女はかたわらの人たちをふしぎそうにじっとみつめた。少女が起きあがると、両親は彼女を両腕にだきしめて、よろこびに泣いた。」(同上 70, 72)

- c. 他にイエスが同様な奇跡を働かれた、どのような例がありますか(ルカ 7:11-17)。

「救い主は死人を命へとよみがえらせられた。そのうちの一人がナインのやもめの息子であった。人々がイエスに会ったとき、彼らは彼を墓へ運んでいた。このお方は青年の手を取り、彼を引き起こして、彼を生かして母親に返された。そのとき、群は喜びと神への讃美の叫びをもって自分たちの家に帰った。」(イエスの物語 79)

4. 群衆がこのお方を認める

- a. 群衆の中からひとりの人が、どのようにイエスに呼びかけましたか。彼の大きな必要は何でしたか (マルコ 9:17, 18)。
- b. イエスはどのように信仰を持つ必要性を示されましたか。また父親の答えは何でしたか (19-24 節)。

「父親は、長年の苦しみを物語り、もうそれ以上がまんできないかのように、『できますれば、わたしどもをあわれんでお助けください』と叫んだ。『できますれば』いまになってもなお父親は、キリストの力を疑った (マルコ 9:22)。

イエスは答えて、『信ずる者には、どんな事でもできる』と言われる (マルコ 9:23)。キリストの側に力の不足はない。息子のいやしは、父親の信仰にかかっている。』(各時代の希望中巻 200)

「われわれを天に結びつけ、暗黒の勢力と戦う力をわれわれに与えてくれるのは信仰である。キリストを通して、神は、あらゆる罪の傾向を征服し、あらゆる誘惑に抵抗する手段をお与えになった。しかし、自分は信仰が足りないと思って、キリストから離れたままにいる者が多い。こういう魂は、無力と無価値のままに、あわれみ深い救い主のいつくしみにすがりなさい。自分を見ないで、キリストを見なさい。この世におられたときに、病人をいやし悪鬼を追い出されたおかたは、今日も同じに偉大なあがない主であられる。信仰は神のみことばによって生まれる。だから『わたしに来る者を決して拒みはしない』とのキリストの約束をしっかりとつかみなさい (ヨハネ 6:37)。『信じます。不信仰なわたしを、お助けください』と叫んで、イエスの足下に身を投げなさい (マルコ 9:24)。そうするかぎり、あなたは決して滅びることはない、決して。』(同上 202, 203)

- c. イエスはどのようにご自分がまことに神聖な教師であられることを示されましたか (25-27 節)。

「イエスは苦しんでいる者に向かって、『おしとつんばの霊よ、わたしがおまえに命じる。この子から出て行け。二度と、はいって来るな』と言われる (マルコ 9:25)。少年は叫び声をあげて、苦しみもだえる。悪鬼は、出て行くにあたって、この被害者の生命を引き裂いてしまいそうにみえる。すると少年は、身動きしなくなり、いのちがとだえたかのようにみえる。群衆は、『あの子は死んだ』とささやく。しかしイエスは、少年の手をとって起こし、まったく健康な心とからだになった彼を父親に引き渡される。父親と子は救い主のみ名を賛美する。『人々はみな、神の偉大な力に非常に驚いた』(ルカ 9:43)。一方、律法学者たちは、敗北し、うちしおれ、ふきげんな顔をしながら立ち去った。』(同上 202)

5. 彼の敵が畏敬に打たれた

- a. イエスの敵たちでさえ、彼らがイエスに従う者であるかのようにふるまったとき、どのようにこのお方を呼びましたか。彼らはこのお方に何を尋ねましたか（マルコ 12:13, 14）。

「パリサイ人は、ローマ人から税金を取りたてられることにいつもいらだっていた。税金を払うことは神の律法に反すると、彼らは主張した。いま彼らはイエスをわなにかける機会を発見した。スパイたちがイエスのもとにやってきて、あたかも自分たちの義務を知りたいと望んでいるかのように、誠実さをよそおいながら、『先生、わたしたちはあなたが真実なかで、だれをも、はばかれないことを知っています。あなたは人に分け隔てをなさらないで、真理に基いて神の道を教えてください。ところで、カイザルに税金を納めてよいでしょうか、いけないでしょうか』と言った（マルコ 12:14）。（各時代の希望下巻 47-49）

- b. イエスは彼らの策略をどのようにくじかれましたか。彼らの反応は何でしたか（15-17 節）。

「スパイたちは、イエスが彼らの質問に対して、よいとか、いけないとか端的に答えられるものと思っていた。……しかしま彼らは、どうしてよいかわからないほど敗北したことを感じた。彼らの計画は狂った。彼らの質問がその場で簡単に片づけられてしまったので、もはやそれ以上言うべきことがなかった。

キリストの答は言いがかりではなく、質問に対する率直な答であった。カイザルの名前と肖像がぎざまれているローマの貨幣を手を持ちながら、イエスは、彼らがローマの権力下に生活しているのだから、神に対する義務と矛盾しない限り、ローマの求める支持を与えるべきであると宣言された。しかしその国の法律に柔順に従う一方では、いつでも神への忠誠を第一としなければならなかった。」（同上 49, 50）

個人的な復習問題

1. 民がイエスを「主人」として言及するのは、なぜ正しいのですか。
2. 高慢なラビは、イエスに対して、どのように敬意を表しましたか。なぜ彼はそうしたのですか。
3. ヤイロの娘に対する奇跡は、イエスについて、何を明らかにしましたか。
4. イエスが男の子から悪鬼たちを追い出されたとき、家族はどのように反応しましたか。役人たちの反応は何でしたか。なぜですか。
5. イエスは、スパイたちがご自分をわなにおとしいれるために遣わされたとき、どのように彼らを困惑させられましたか。

奇跡を働かれるお方

「人々はイエスのなさったこのしるしを見て、『ほんとうに、この人こそ世にきたるべき預言者である』と言った。」(ヨハネ 6:14)

「イエスとその偉大な奇跡によって神性をあらわされたとき、また病人をいやし、死人をよみがえらせられたとき、人々はお互いに、『この方はダビデの子ではないか』とたずねた。……しかしイエスをダビデの子と呼んだ多くの者は、イエスの神性をみとめなかった。彼らはダビデの子が神のみ子でもあることをさとらなかった。」(各時代の希望下巻 59)

推奨文献： 各時代の希望中巻 57-62 103-115

日曜日

10月11日

1. 多くの者がいやされる

a. 人々は、イエスのいやしの働きに、どのように応じられましたか(マルコ 1:32, 33)。

「人々はラビを恐れて、日没までいやしてもらいにこなかった。日か暮れると、家や店や市場から、町の人々がイエスの泊まっておられた粗末な家に押し寄せた。病人は担架にかつがれ、つえにすがり、或は友人にささえられて、よろめきながら救い主の前に集まってきた。

いやし主が明日も彼らの間におられるかどうかはだれにもわからなかったので、人々は次から次へとたえずきてはまた帰って行った。カペナウムにこんな日があったことはかつてなかった。大気は勝利の声と救いの歌声に満ちた。

イエスは最後の病人がいやされるまで、その働きをおやめにならなかった。群衆が去ったのは、夜も既にふけてからで、やっとシモンの家にも静けさが訪れた。長いそうぞうしい一日がすぎて、イエスはお休みになった。しかし町が眠りに包まれているころ、救い主は『朝はやく、夜の明けるよほど前に、イエスは起きて寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた』(マルコ 1:35)。(ミストリー・オブ・ヒーリング 12, 13)

2. 人々がイエスに群がる

- a. 別の時に、イエスが舟でゲネサレへ到着されたとき、何が起こりましたか（マルコ 6:53-55）。

「イエスは一日だけ姿をお見せにならなかったあと、ゲネサレに着いておられた。イエスが上陸されたことがわかると、人々は、『その地方をあまねく駆けめぐり、イエスがおられると聞けば、どこへでも病人を床にのせて運びはじめた』（マルコ 6:55）。（各時代の希望中巻 128）

- b. 病人たちは、どれほど必死にイエスに会いたいと思いましたか。彼らの信仰は、どのように報われましたか（56 節）。

- c. 別の時に、ほかにだれが同じ方法でいやされましたか（マルコ 5:25-34）。この信仰の模範から、わたしたちは何を学ぶことができますか。

「女が自分の手を伸ばして、このお方の衣のふちに触れたとき、彼女は、このひそかな接触はだれにも知られないと思った。しかし、キリストはその接触を認められ、彼女の信仰に、ご自分のいやしの力をもってお応えになった。彼女は一瞬にして自分がいやされたことを知った。そして主イエスは、そのような信仰が気づかれずにすぎることを望まれなかった。」（天国で 108）

「救い主は不注意な群衆が偶然さわったのと、信仰をもってさわったのとを区別することがおできになった。このような信頼を、何にも言わないで、みすごすわけにいかなかった。イエスは、このいやしい女によるごびの泉となるような慰めのことば—イエスに従う者にとって世の終りまで祝福となるようなことばを語りたいとお思いになった。」（各時代の希望中巻 73）

「キリストとの生きた接触のうちに導き入れる信仰は、わたしたちの側で、最高の優先、完全な依存、全き献身を表明する。この信仰は愛によって働き、魂をきよめる。それはキリストに従う人々の生涯において、神の戒めへの真の従順をもたらす。なぜなら、神への愛と、人への愛が、キリストとの生きたつながりの結果だからである。」（*エレクテッド・メッセージ* 1 巻 334）

3. 助けるために弟子たちがつかわされる

- a. イエスの働きが発展するにつれ、このお方はどのご計画を実行にうつされましたか(マルコ 6:7-11)。

「働きが効果をもって実行されるために、主はご自分の弟子たちを二人ずつ送り出された。」(ライフ・スカッ 302)

「二人が共に働く必要がある。なぜなら、一人がもう一人を励まし、彼らは勧告し、祈り、共に聖書を探ることができるからである。この方法で、彼らは真理により広範な光を得ることができる。なぜなら、一人はある一面を見、もう一人が真理の別の面を見るからである。もし彼らが誤っているなら、言葉や態度において、互いに正すことができる。こうして真理は、それを擁護する人々の欠点のゆえに軽く見られることがなくなる。」(伝道 74)

「愛と単純さのうちに、戸別に訪問して真理を提示することは、キリストがご自分の弟子たちを最初の伝道旅行に送り出されたときにお与えになった指示と調和している。神への讃美の歌によって、へりくだった心からの祈りによって、家族の輪において単純に聖書の真理を提示することによって、多くの人々に伝えることができる。」(キリストを映して 202)

- b. 弟子たちが出て行ったとき、彼らは説教といやしをどのように組み合わせましたか(12, 13 節)。今日、どのように同じ用法で働くことができますか。

「偉大な医事伝道者キリストがわたしたちの模範であられる。…このお方は病人をいやし、また福音を宣布された。このお方の奉仕において、いやしと教えは互いに密接につながっていた。今日、それらは分離されてはならない。」(健康についての勧告 395, 396)

「キリストの生涯と苦しむ者へのこのお方の奉仕は、分離できないほどつながっている。わたしに与えられてきた光から、わたしは医事伝道の働きと福音伝道の間には、緊密な関係が存在すべきことを知っている。それらは一つの働きとして神聖に結合のうちに互いに結びついており、決して分離させられるべきではない。天の諸原則は、救い主のみ足の跡にしたがって歩むと主張する人々によって採用され、実践されるべきである。このお方はご自分の模範によって、医事伝道の働きが福音の宣布に取って代わるのではなく、それに結びつくべきことを示された。キリストは体と魂の必要に奉仕し、身体的な病気をいやし、それから悩む魂に平安をもたらす言葉を語られ、医者と牧師の働きを結合させることにより、真の信心深さを完全に現された。」(同上 528)

4. 自然の猛威でさえ従う

- a. 弟子たちが小さい舟で、イエスと海を渡っていたとき、何が起こりましたか（マルコ 4:35-37）。

「夜は静かで気持がよく、静けさが湖をおおっていた。しかしにわかに、くらやみが空一面にひろがり、東岸の山の谷間から風がはげしく吹きおろしてきて、すさまじい嵐が湖をおそった。

太陽はすでに沈み、夜のくらやみが嵐の海にたれこめていた。波はうなり声をあげる風に荒れ狂い、弟子たちの舟に激しくぶつかって、いまにも舟をのみこみそうにみえた。この屈強な漁師たちは、これまで湖で生活し、何度嵐に会っても安全に舟をあやつってきたが、こんどだけは彼らの腕も力も役にたたなかった。彼らは嵐にまきこまれてどうすることもできず、舟に水がたまってくるのを見ると望みが失われてしまった。」（各時代の希望中巻 56）

- b. 嵐の中で、イエスはどこにおられましたか。またこのお方はどのように反応されましたか（38-40 節）。

「突然一すじのいなづまがくらやみをつらぬいて光る。するとこのさわぎにじゃまされないで横になったまま眠っておられるイエスのお姿が彼らの目にうつる。驚きと絶望のうちに、彼らは、『先生、わたしどもがおぼれ死んでも、おかまいにならないのですか』と叫ぶ（マルコ 4:38）。……

彼らの叫び声がイエスを起す。いなづまのひらめきがイエスのお姿を照し出すと、そのお顔には天の平安がみられる。彼らはイエスの御目から、無我のやさしい愛を読みとり、心をイエスに向けると、『主よ、お助けください、わたしたちは死にそうです』と叫ぶ（マタイ 8:25）。」

この叫びをあげてかえりみられない魂はない。弟子たちが最後の努力をかたむけるためにオールをにぎりしめると、イエスが立ちあがられる。イエスが弟子たちのまん中に立たれると、嵐は荒れ狂い、波が彼らの上にくだけ、いなづまがイエスのお顔を照す。イエスは、これまでも幾度かあわれみの行為に使われたみ手をあげて、荒れ狂う海に、『静まれ、黙れ』と言われる。」（同上 58, 59）

- c. この奇跡に対する弟子たちの反応は、何でしたか（41 節）。

「暴風はやみ、大波は静まる。黒雲は消え去り、星が輝き出る。舟は静かな海の上に安定する。するとイエスは、弟子たちに向かって悲しげにこうおたずねになる、『なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか』（マルコ 4:40）。

弟子たちは一言もなく静まりかえった。ペテロさえ、自分の心を満たした畏敬の思いを口に出そうとはしなかった。」（同上 59）

5. イエスはわたしたちの必要を満たされる

- a. どの奇跡が、わたしたちの物質的な必要に対するイエスの同情を表しましたか（マルコ 6:35-44）。

「人々に平和と幸福とを手に入れる方法をお教えになったイエスは、彼らの霊的需要同じに、物質的需要同いやられた。人々は疲れ、弱っていた。腕に赤ん坊をかかえ、すそにまつわりつく小さな子供をつれた母親たちもいた。多くの者は何時間も立ちつづけていた。……

弟子たちの手によってくばられた質素な食物には、いろいろな教訓の宝が含まれていた。用意されたものは粗末な食事だった。魚と大麦のパンは、ガリラヤ湖のほとりの漁師たちの家族の常食だった。……食欲を満足させるためにだけに用意された食物は、彼らのためになる教訓を与えなかった。」（各時代の希望中巻 105-107）

- b. 今日、わたしたちの必要を満たしてくださる神の能力について、わたしたちにはどの確証がありますか（ピリピ 4:19）。

「神はわたしたちの必要をご存知であり、それらのために備えをしてこられた。主はご自分の子らのために供給する宝庫を持っておられる。そして彼らにどのような状況下でも彼らが必要としているものを与えることがおできになる。そうであれば、わたしたちはなぜこのお方を信頼しないのであろうか。このお方はご自分の規則に対する忠実な従順を条件に、ご自分の子らに尊い約束をなさった。このお方が取り除くことのできない重荷はなく、このお方が晴らすことのできない闇はなく、この方が力に変えることのできない弱さはなく、このお方が静めることのできない恐れはなく、このお方が導き、義とすることのおできにならない価値ある大志はない。」（彼を知るために 224）

個人的な復習問題

1. イエスはいつご自分の一日のいやしの働きをおやめになりましたか。
2. どのようにいやす信仰が現われますか。
3. なぜ一人だけで働くよりも、二人が共に働く方が、より効果的なのですか。
4. イエスは、自然の猛威に対する支配力を、どのように示されましたか。
5. なぜイエスは民に単純な食物だけを供給されたのですか。

精神を癒す

「わがたましいよ、主をほめよ。そのすべてのめぐみを心にとめよ。主はあなたのすべての不義をゆるし、あなたのすべての病をいやし」（詩篇 103:2, 3）

「自然をささえている同じ能力が人の中にも働いている。星や微生物をみちびくのと同じ大いなる法則が人の生命を支配している。体内の生命の流れを調節する心臓の働きを支配する法則は、魂の裁判権をお持ちになる偉大な英知の神の法則である。」（教育 104）

推奨文献： 各時代の希望上巻 336-343

日曜日

10月18日

1. イエスは困窮している人をご覧になる

- a. イエスがカペナウムに行かれて、その知らせが広まったとき、何が起こりましたか（マルコ 2:1, 2.）。だれもまたいやしを求めましたか。そして彼はどのようにイエスに近づきましたか（3 節）。

「この中風患者の回復の望みはすっかり失われていた。彼の病氣は罪の生活の結果であって、その後悔のために苦しみは一層ひどかった。彼は心の苦しみと肉体の苦痛から救われたいと望んで、ずっと前からパリサイ人たちや医者たちに訴えていた。しかし彼らは彼の病氣はなおらないと冷淡に宣告し、彼を神の怒りにまかせた。パリサイ人は苦悩を神の不快のしるしとみなし、病人や困っている人たちから遠ざかっていた。ところが自分たちはきよい者だといばっている当人たちが、実は彼らが罪人呼ばわりしている苦しむ者たちよりももっと罪が重い場合がしばしばあった。

中風の男はまったく無力であつた。そしてどこからも助けを受ける見込みがないことを知って、彼は絶望に沈んでいた。その時彼はイエスのすばらしいみわざについて聞いた。彼は自分と同じに罪深くて無力なほかの人たちがいやされたことを聞いた。らい病人たちさえきよめられたということだった。そこでこうした話を伝えた友人たちは、イエスのところへつれて行ってもらえたら自分もまたいやされるかもしれないと信じるように、彼をはげました。しかし彼は自分がどうして病気になるかを思い出すと、望みが消えた。純潔な医者であられるイエスは自分のみ前に出ることをおゆるしにならないだろうと、彼は恐れた。」（各時代の希望上巻 336, 337）

2. 友人たちが病人を助ける

- a. 群衆がイエスを取り囲んだとき、病人の友人たちは何をしましたか（マルコ 2:4）。彼らのねばり強さから、何の教訓を学ぶことができますか。

「中風患者をはこんできた人たちは何度も何度も群衆の中を押しわけて進もうとしたがむだだった。病人は言いようのない苦痛のうちにあたりをみまわした。待ち望んだ助けを目の前にしながら、どうして望みをすてることができよう。病人の思いつきで、友人たちは彼を屋上にはこびあげ、屋根を破ってイエスの足もとに病人をおろした。講話は中断された。救い主はその悲しげな顔つきをごらんになり、訴える目がじっとご自分にそそがれているをごらんになった。イエスは事情を理解された。イエスがその困り疑っている魂をみもとにひきよせられたのであった。この中風患者がまだ家にいたときに、救い主は彼の良心に自覚をお与えになった。彼が罪を悔い改め、自分を健康にしてくださるイエスの力を信じたとき、救い主のいのちを与えるあわれみは、まずその切望する心を祝福した。イエスは、最初のかすかな信仰の光が、イエスを罪人の唯一の助け手として信じる信仰に育って行くのを見守り、それが救い主のみもとに行きたいと努力するたびにだんだん強くなって行くをごらんになっていた。」（各時代の希望上巻 338, 339）

「あなたの心が、かわいているように神を慕い、生ける神を慕ってくだかれるようにしよう。キリストの生涯は人間がもし神の性質を持つならば、いったい何ができるかを示した。キリストが神からお受けになったものはみな、わたしたちも持つことができるものである。だから求めて受けることにしよう。ヤコブのような不屈の信仰と、切に求めてやまぬエリヤの精神をもって、神の約束なさったことが全部与えられるように求めなさい。」（キリストの実物教訓 128, 129）

- b. キリストのどの譬が、この徳を描写していますか（ルカ 11:5-10）。

「時にはわたしたちの祈りへの答えがすぐにもたらされる。時には忍耐強く待ち、熱心にわたしたちが必要としているものを求めて嘆願し続ける必要がある。わたしたちの事例がパンを求めてやまなかった懇願者の事例によって描写されている。『あなたがたのうちのだれかに、友人があるとして、その人のところへ真夜中に行き』と続く。この教訓はわたしたちが想像できる以上の意味を持っている。わたしたちは、もし自分たちの祈りが直ちに答えられるとわからなくても、求め続けなければならない。『そこでわたしはあなたがたに言う。求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。すべて求める者は得、捜す者は見だし、門をたたく者はあけてもらえるからである。』（ルカ 11:9, 10）。」（健康に関する勧告 380）

3. イエスは頭脳にいやしを語られる

a. この病人をご覧になって、イエスは何と言われましたか（マルコ 2:5）。

「いま救い主は、苦しむ者の耳に音楽のようにひびくことばで、『子よ、しっかりしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ』と言われた（マタイ 9:2）。

絶望の重荷は病人の魂からこがり落ちる。ゆるしの平安が彼の心に宿り、彼の顔の輝きにあらわれる。彼の肉体の苦痛は去り、身も心も一変する。無力の中風患者がいやされ、不義の罪人がゆるされたのだ。

単純な信仰をもって、彼はイエスのみことばを新しいいのちの賜物として受け入れた。彼はもうこれ以上何も願わないで、うれしさのあまりことばもなくただ幸福な沈黙のうちに横たわっていた。天の光は彼の顔にかがやき、人々は畏敬の思いをもってその光景をながめた。」（各時代の希望上巻 339）

b. これらの言葉に対して、律法学者たちはどのように反応しましたか（6, 7 節）。

「ラビたちはイエスがこの病人をどう処置されるかを見ようと熱心に待っていた。彼らは、この病人から助けを求められたとき、望みや同情を与えることを拒絶したことを思い出した。それだけで満足しないで、彼らはこの男が罪のために神からわがわがを受けているのだと宣告した。……人々がみなその光景を興味深く見守っているのを見て、彼らは人々に対する自分たちの影響力が失われるのではないかと、恐ろしい不安を感じた。

イエスは中風患者の罪がゆるされたと宣告された。パリサイ人はこのことばをとらえて、それを神への冒瀆とし、死刑に値する罪として示すことができると考えた。彼らは心の中で『この人は、なぜあんなことを言うのか。それは神をけがすことだ。神ひとりのほかに、だれが罪をゆるすことができるか』と言った（マルコ 2:7）」（各時代の希望上巻 339, 340）

c. 彼らの疑いに対して、イエスはどのように応じられましたか（8-11 節）。

「イエスがじっと目をそそがれると、彼らは小さくなってあどろびました。するとイエスは、『なぜ、あなたがたは心の中で悪いことを考えているのか。あなたの罪はゆるされた、と言うのと、起きて歩け、と言うのと、どちらがたやすいか』と言われた。そして『しかし、人の子は地上で罪をゆるす権威をもっていることが、あなたがたにわかるために』と言われて、中風の者に向かい、『起きよ、床を取りあげて家に帰れ』と言われた（マタイ 9:4-6）。」（同上 340）

4. 神のいやし、救いの力

- a. 中風の者は、歩くようにと命じられたイエスのご命令に、どのように応じましたか（マルコ 2:12（上句））。

「すると担架にのせられてイエスのところへつれてこられたその男は、若者のよう
なはずむ力で立ちあがる。いのちを与える血潮が彼の血管に脈うつ。彼のからだ
の器官がどれも急に活動をはじめ。近づいていた死の青白さが消えて、健康の
輝きがあらわれる。」（各時代の希望上巻 340）

- b. 人々の反応は、どうでしたか（12 節（下句））。

「中風患者のいやしが人々に与えた効果は、ちょうど天が開いて天国の栄光があ
らわされたようなものだった。病気をいやされたこの男が一步ごとに神を賛美し、
荷物を羽毛のように軽々とかついで群衆の間を通って行くと、人々はうしろへさが
って道をあけ、畏敬の念にうたれた顔つきで彼をじっとみつめ、『きょうは驚くべきこ
とを見た』とそっとささやき合った（ルカ 5:26）。

パリサイ人は驚きのあまりおしのようにだまりこみ、敗北感に圧倒された。……
彼らは口にこそ出さないが、自分たちよりもすぐれたおかたが目の前におられること
をみとめて、まごつき、赤面した。イエスがこの地上で罪をゆるす権威を持ってお
られるという証拠が強ければ強いほど、彼らはますます固く不信のからにとじこも
った。」（各時代の希望上巻 342）

- c. 神は創造において、どの手段をお用いになりましたか（詩篇 148:5; 33:6, 9; 創
世記 1:3）。このお方は贖いにおいて、何をお用いになりますか。これは中風患
者と、どのように関係がありましたか。

「あの朽ちかけていた肉体に健康を回復するのに要したのは、創造力以外の何も
のでもなかった。地のちりから造られた人間にいのちを宣告した同じ声が、死にか
けていた中風患者にいのちを告げた。しかも肉体にいのちを与えたのと同じ力が心
を新たにしたのであった。創造のときに、『主が仰せられると、そのようになり、命
じられると、堅く立った』が、その主が罪ととがのうちに死んだ魂にいのちを語ら
れたのであった（詩篇 33:9）。肉体のいやしは、心を新たにした力の証拠であった。
キリストは中風患者に『人の子は地上で罪をゆるす権威をもっていることが、あな
たがたにわかるために』起きて歩めとお命じになった（マルコ 2:10）」（同上）

5. 許しを通していやされる

- a. 罪はわたしたちに対して、どのような影響がありますか。またわたしたちは何を必要としていますか（詩篇 38:4; 41:4; 使徒行伝 10:38）。
- b. 何に、身体的ないやしが伴いますか（詩篇 103:2, 3）。中風患者の話から、何を学ぶことができますか。

「この中風患者は、キリストのうちに魂と肉体のいやしをみいだした。霊的ないやしに肉体的な回復がつづいた。この教訓をみのがしてはならない。今日肉体の病気にかかりながら、この中風患者のように、『あなたの罪はゆるされた』とのことばをきくのを待ち望んでいる者が幾千人となくいる。とどまることを知らず、満たされることのない欲望をもった罪の重荷こそ、彼らの病気の根源である。彼らは魂をいやして下さるおかたのもとに行くまでは安心が得られない。イエスだけがお与えになることのできる平安によって、心に活力が与えられ、肉体の健康が与えられる。

イエスは『悪魔のわざを滅ぼしてしまうため』においてになった（ヨハネ第一 3:8）『この言に命があった』。イエスは『わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである』と言われる。イエスは『命を与える霊』である（ヨハネ 1:4、10:10、コリント第一 15:45）。イエスは、この地上において病人をいやし、罪人にゆるしをお告げになったときと同じに、いまなおいのちを与える力を持っておられる。主は『あなたのすべての不義をゆるし、あなたのすべての病をいや』される（詩篇 103:3）」（各時代の希望上巻 341, 342）

個人的な復習問題

1. パリサイ人は、病人や困窮している人を、どのようにみなしましたか。実態は、何でしたか。
2. いつ、中風患者は自分の罪を悔い改めましたか。彼の悔い改めには何が伴いましたか。
3. イエスはどのように、この人の精神的な重荷を取り除かれましたか。またその結果は何でしたか。
4. 体をいやして下さる方法は、神が思いを新しくして下さる方法と、どのように似ていますか。
5. 今日この世で、多くの人々は、どのような種類のいやしを切望していますか。

キリストの権威

「すると天から声があった、『あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である』。」(マルコ 1:11)

「不義の世の罪がキリストの上におかれたにもかかわらず、また屈辱をしのんでわれわれの墮落した性質をおとりになったにもかかわらず、天からの声は、イエスを永遠なる神のみ子と宣言した。イエスが嘆願者としてひざまずき、涙ながらに天父の是認を懇願しておられるのを見て、ヨハネは深く感動した。神の栄光がイエスをとりかこみ、天からの声がきこえた時、ヨハネは神が約束しておられたしるしをみとめた。自分がバプテスマをさずけたおかたが世のあがないの主であることを彼は知った。」(各時代の希望上巻 117)

推奨文献： 各時代の希望下巻 34-46

日曜日

10月25日

1. 神がご自分の御子をお認めになる

- a. 御父は、どのようにご自分の御子を、そのバプテスマの時に、お認めになりましたか(マルコ 1:11)。

「ヨルダンの岸辺でのキリストの祈りには、このお方を信じるすべての人が含まれている。あなたが愛されたお方のうちに受け入れられるという約束が、あなたにもたらされる。それを不屈の信仰でしっかり握りなさい。神は『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である』。これはサタンがあなたの道に投げかけた暗い影を通して、キリストがあなたのために無限の神の御座へと道を切り開かれたことを意味する。このお方は全能の力を捕まれた。そしてあなたは愛するお方のうちに受け入れられるのである。」(彼を掲げよ 109)

「失われた人類のためのキリストの祈りは、サタンが人と神の間に投げかけたすべての影を通して道を切り開き、栄光の御座そのものへはっきりとした通信の通路を残した。…

神のみ声が、キリストの嘆願に答えて聞かれた。そしてこれは罪人に、自分の祈りが御父の御座にとどまる場所を見いだすことを告げている。聖霊がその力と恵みを求める人々に与えられ、わたしたちが神に拝謁(はいえつ)するとき、わたしたちの弱さを助けて下さるのである。」(わたしたちの高い召し 156)

2. キリストがご自分の神性を現される

- a. イエスが高い山にご自分の弟子のうち三人を連れて登られたとき、何が起こりましたか。また彼らの反応は、何でしたか（マルコ 9:1-6）。

「〔イエス〕がへりくだった心で石だらけの地面にひざまずいておられると、突然に天が開け、神の都の黄金の門があげ放たれ、聖なる光の輝きが山の上にくだって、救い主のおからだをつつむ。内部の神性が人性をつらぬいて光を放ち、天からくだった栄光と一つになる。ひれ伏した姿勢から起き上って、キリストは、神らしい威厳をもってお立ちになる。魂の苦悩は過ぎ去った。主のお顔はいま日のように輝き、その衣は光のように白くなった』（マタイ 17:2）。

弟子たちは、目をさまして、山を照しているまばゆい栄光を見る。恐れと驚きのうちに、彼らは光り輝く主のおからだをみつめる。ふしぎな光に目がなれてくると、イエスはおひとりではないことがわかる。」（各時代の希望中巻 192）

- b. このとき、どのように神はご自身を知らされましたか（7 節）。

「弟子たちが、荒野でイスラエルの部族の先頭を行った雲よりもっと輝く栄光の雲を見、山をゆるがすほどのおそれ多い威厳をもって語られる神のみ声を聞いたとき、彼らは、うたれて地面に倒れた。」（同上 196）

- c. 弟子たちがまたイエスとだけになると、このお方は彼らにどのように警告なさいましたか。それはなぜですか（8, 9 節）。

「弟子たちにあらわされた啓示は、彼ら自身の心の中でよく考えるべきものであって、外へ向かって発表すべきものではなかった。それを群衆にしゃべったら、嘲笑やつまらない驚きをひき起すだけであろう。九人の弟子たちでさえ、キリストが死人の中からよみがえらせるまでは、その光景を理解できないのであった。愛された三人の弟子たちでさえ、どんなに理解がにぶかったかということは、キリストが目の前に迫っていることについてすっかり話されたにもかかわらず、死からよみがえるとはどういうことだろうかと互にたずね合ったことにあらわれている。それでも彼らは、イエスに説明を求めなかった。」（同上 197-198）

3. 神からの権威を主張しない

- a. 祭司や律法学者たちは、イエスをわなにかけるために、どのような質問をしましたか (マルコ 11:27, 28)。

「イエスがメシヤであるという証拠は、役人たちの目の前にあった。そこで彼らは、イエスの権威のしるしを求めないで、イエスから何らかの告白か宣言を引き出し、それによってイエスを罪に定めようとした。…

彼らは、イエスが自分の権威は神からさずけられたのだと主張されるものと期待した。このような主張をされたら、彼らはそれを否定するつもりであった。」(各時代の希望下巻 34, 35)

- b. イエスの答えと、その後の祭司や律法学者たちの答えを述べなさい(29-33 節 (上句))。

「祭司たちは、自分たちがどんな理屈を並べても、のがれることのできないジレンマに陥ったことを知った。もしヨハネのバプテスマは天からだとすれば、彼らの矛盾が明らかになる。ではなぜあなたがたはヨハネを信じなかったのかとキリストは言われるだろう。ヨハネはキリストについて、『見よ、世の罪を取り除く神の小羊』とあかしした (ヨハネ 1:29)。もし祭司たちが、ヨハネのあかしを信じるなら、どうしてキリストがメシヤであることを否定することができよう。もし彼らが本当の信念、すなわちヨハネのメッセージは人からだと宣言すれば、彼らは怒りの嵐を招くであろう。なぜなら人々はヨハネを預言者と信じていたからである。

熱心な興味をもって、群衆は決定を待った。彼らは、祭司たちがヨハネのメッセージを受け入れると告白したのを知っていたので、ヨハネが神からつかわれたということを問題なくみとめるだろうと期待した。ところがひそひそと相談し合ってから、祭司たちは何にも言わないことにきめた。偽善的に無知をよそおいながら、彼らは、『わたしたちにはわかりません』と言った (マタイ 2:2)。」(同上 35)

- c. イエスは彼らにご自分がだれの権威で働いているかをお告げになりましたか (33 節 (後句))。なぜですか、あるいはなぜそうしなかったのですか。

「学者たち、祭司たち、役人たちはみなだまった。彼らは、どうしてよいかわからず、失望し、それ以上キリストに質問を浴びせる元気もなく、まゆをよせて立ったままであった。臆病と優柔不断のために、彼らは人々の尊敬を大部分失った。人々はいまそばに立って、これらの高慢な、自らを義とする人たちが敗北するのを見ておもしろがった。」(同上 35, 36)

4. 権威の根拠

- a. バリサイ人たちはイエスを不快に思ったとき、ある役人たちに何をするように命じましたか。またその結果は何でしたか（ヨハネ 7:44）。
- b. なぜ役人たちは彼らの命令に従わなかったのですか（45, 46 節）。

「イエスを捕まえるために送られた役人たちは、この人のように語る人は今までにありませんでしたと報告した。しかし、この理由は、この人のように生きた人がこれまででなかったからである。なぜなら、もしこのお方がそのように生きてこれなかったなら、そのように語ることはおできにならなかったからである。このお方の言葉には説得力があった。なぜなら、それらが純潔で聖なる心から出たものであり、愛と同情と慈善と真理に満ちていたからである。静かで矛盾のない純粋で真実なクリスチアンの生涯には、言葉をしのぐ雄弁さがある。」（福音宣伝者（1892）244）

- c. イエスの教えは、当時の他の教師たちの教えと、どのように対照的でしたか（マルコ 1:22）。なぜですか（マタイ 23:1-3）。

「イエスは、ご自分が人に教えた通りに自ら生活された。彼は、弟子たちにこう仰せになった。『わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。』『わたしがわたしの父のいましめを守った。』（ヨハネ 13:15; 15:10）。このように、キリストのみ言葉は、その生活の中に完全な実例と裏づけをもっていた。もっと重要なことは、イエスの教えはイエスの人格であったということである。イエスのみ言葉は、イエスご自身の人生の経験の表現であったばかりでなく、イエスご自身の品性の表現であった。イエスは真理を教えられたばかりでなく、イエスご自身が真理そのものであった。イエスの教えに力をあたえたものはこれであった。」（教育 78）

「〔キリスト〕は、抽象的な理論を扱われなかった。かえって品性の発達に重要不可欠なものを扱われた。すなわち、人の神を知る能力を広げ、善をなす力を増すものであった。このお方は生活のふるまいと関係し、また人を永遠に結びつけるこれらの真理について語られた。

人々を神、そのみ言葉、あるいはそのみ働きについての人間の理論を研究するよう仕向ける代わりに、このお方はご自分を見るように、すなわちご自分のみわざ、ご自分のみ言葉のうちに、またご自分のみ摂理によって表されているとおりにご自分を見るようにとお教えになった。このお方は彼らの思いを無限のお方の思いと接触するように導かれた。…このような力をもって、思想を覚まし、大志の火をともし、体と思いと魂のすべての能力を目覚めさせるために語った者は、かつてなかった。」（彼を掲げよ 177）

5. イエス、隅の石

- a. キリストは、ダビデのどの言葉を引用されましたか。イエスはどのように、隅のかしら石としてのご自分の権威を現されましたか (詩篇 118:22, 23; マルコ 12:10, 11)。

「キリストはユダヤ人の制度と救いの計画全体の隅のかしら石であった。この土台石を、ユダヤ人の建築家、すなわちイスラエルの祭司たちと役人たちはいみづけてようとしていた。救い主は、彼らの危険が示されている預言に彼らの注意を呼び起こされた。主は、可能なかぎりあらゆる手段をつくして、彼らがしようとしている行為の性格を明らかにしようとされた。」(各時代の希望下巻 40, 41)

- b. イエスは隅の石として、どのように確認されましたか (イザヤ 28:16; 申命記 32:4; サムエル上 2:2)。

「神は、限りない知恵をもって、隅のおや石をえらび、それをご自分で据えられた。神はそれを『堅くすえた隅の石』と呼ばれた。全世界の人々が彼らの重荷と不幸をその上にのせても、この石はそれらの全部にもちこたえるのである。彼らがその上に築いても絶対に安全である。キリストは『試みを経た石』である。主は、ご自分に信頼する者を決して失望させられない。主はどのテストにも耐えられた。主は、アダムの不義と、その子孫の不義の圧力に耐え、悪の勢力に打ち勝って余りある者となられた。主はすべての悔い改める罪人がのせる重荷に耐えられた。不義の心は、キリストのうちに救いをみいだした。主は『堅くすえた隅の石』である。主によりたのむ者は みな絶対に安全である。」(同上 43)

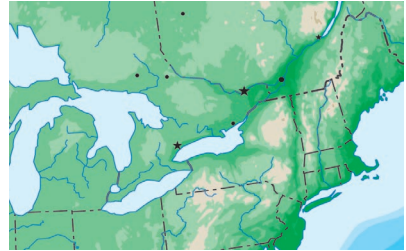
個人的な復習問題

1. ヨルダン川でのキリストの祈りに対する神の応答は、あなたにとって何を意味しますか。
2. 三人の弟子たちは、キリストと共にいた山で、何を見、また聞きましたか。
3. イエスをご自分の教える権威について疑問を持たれたとき、どのようにお答えになりましたか。なぜですか。
4. イエスが語られたときに、あのような権威を与えたのは何でしたか。わたしたちについてはどうですか。
5. イエスは隅の石について語られたとき、さらにどのような警告をお与えになりましたか。なぜ、そうされたのですか。

第一安息日献金

モントリオールの礼拝堂のために

カナダは国土からいえば、世界で第二番目に大きい国で、9,984,670 平方キロメートル (3,855,100 平方マイル) を占めています。人口は現在約 3700 万人です。カナダは G7 の国々にあって、最大に民主主義的な成長を遂げてきました。立憲君主制であり、十の州と三つの準州からなる連邦国家です。歴史により、カナダには二つの公用語があります。カナダ人の大部分が話す英語と、人口のおよそ



20%が母国語とするフランス語です。フランス語を母国語とする人々のほとんどはケベック市に住んでいます。州政府はケベック市にあります。経済的な州の中心地はモントリオール市で、世界で第二番目に大きいフランス語圏の都市であり、400 万人を超えています。

言葉の障壁により、カナダにおける福音の働きは、ほとんど英語圏で発達してきました。しかしながら、2002 年以降、カナダにあるわたしたちの教会は、モントリオールにある様々なプロテスタント教会を借りて、そこで仏語と英語の両方で定期的な安息日の礼拝を執り行いました。また料理教室や聖書研究を提供し、霊的な文書を配布し、健康の奉仕や個人的な証によって、その地域に伝えてきました。主はわたしたちの努力を祝福して下さり、信徒たちは信仰において強く、新しい魂が囲いに入ってきました。多くのお客さんが定期的にわたしたちの集会に出席し、幾人かはバプテスマのための用意をしています。

わたしたちの会衆は、中国、コロンビア、フランス、ハイチ、ジャマイカ、米国から来て、加えて地元のカナダ人と共に民族、文化、言語において大きな多様性を反映しています。

今わたしたちの目下の大きな必要は、ケベック州とその他のフランス語圏で福音の働きを行うセンターとしての機能を持った礼拝堂です。わたしたちの地域の教会員はすでに惜しみない献金をし、いくつかの基金を集めました。建物の費用をまかなうにはまだはるかに足りません。

わたしたちは主が皆さんの思いと心に、わたしたちの大きな必要とまたフランス語圏の世界にいる魂に伝える広大な機会に対する覚醒を与えて下さるようお祈りします。どうぞ特別第一安息日献金が集められるときには、惜しみない献金をお願いします。こうしていつか世界のこの地域で礼拝堂が神の栄光のために立つことができますように。ありがとうございます。神様が献金と献金者を一人びとりを豊かに祝福して下さいように。

カナダ・フィールドの兄弟姉妹より

キリスト、人の僕

「〔キリストは〕おのれをむなしくして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、」（ピリピ 2:7）

「わたしたちの主イエス・キリストは人類の必要に対する倦むことを知らない僕としてこの世に來られた。このお方は『わたしたちのわずらいを身に受け、わたしたちの病を負うた』が、それは人類のすべての必要に奉仕することができるためであった。病氣と不幸と罪の重荷を取り除くために、このお方は來られた。人々に完全な回復をもたらすことがこのお方の使命であった。この方は健康と平安と品性の完全さを与えるために來られた。」（わたしたちの御父は保護してくださる 284）

推奨文献： ミニストリー・オブ・ヒーリング 2-6

日曜日

11月1日

1. 自己一命を犠牲にする

a. キリストの奉仕はどれほど遠くにまで及びましたか（マルコ 2:2; 5:21, 24）。

「救い主のまわりに群がった群衆の中には、ガリラヤ湖のほとりで生活していた人々がだぜいいた。」（祝福の山 184）

b. このお方は他の人々の必要にどれほど迫られていましたか（マルコ 3:20; マタイ 8:20）。

「〔キリストは〕夜どおし祈りに没頭しておられ、〔また〕昼は大群衆にとりかこまれて、食事をされる時間さえなかった。」（各時代の希望中巻 37）

「キリストの一生は絶えざる自己犠牲の一生であった。親切な友人たちが旅びとしての彼のために備えた所以外には、彼の家はこの地上のどこにも見あたらなかった。彼はわたしたちのために最も貧しい生涯を送り、貧しい者や苦しい者の間で生活し、また働くためにおいでになったのである。それほどお尽しになった人々の間にあって彼は認められず、とうとばれずに生活なさった。」（ミニストリー・オブ・ヒーリング 4, 5）

2. 他の人々を心にかける

- a. 民の必要が非常に迫っていたために、イエスはご自分の弟子たちに休息を与えるために、何をなさいましたか (マルコ 6:31)。なぜですか。

「時は短く、なすべき働きは大きかったが、主はわたしたちが活動の時を長くして、休息の期間や聖書研究や神との交わりの時間がなくなるようなことはお喜びにならない。これらのことはみな、魂を強固にするために、すなわち、わたしたちを神から知恵をいただくことのできる場所におき、自分たちのタラントを主人の奉仕において最高にまで用いるために重要不可欠である。

イエスが収穫は多いが働き人は少ないといわれたとき、ご自分の弟子たちに休むことなく働く必要性を訴えられなかった。…このお方はご自分の弟子たちに彼らの力は厳しく試されてきたため、しばらく休息を取らなければ、将来の働きに適さない者になると言われる。…イエスの御名において、あなたの力を経済的に用いなさい。休息によってリフレッシュされた後、あなたはもっと多く、もっと良い働きができる。」(今日のわたしの生涯 133)

「いつも働きと興奮の緊張下にあることは賢明ではない。…なぜなら、こうすることによって個人的な敬神がなおざりにされ、思いと魂と体の力が過大な負荷を受けるからである。」(信仰によってわたしは生きる 233)

- b. 民が彼らを追い続けていたとき、イエスの応答は何でしたか。このお方はどのようにして彼らの必要を満たされましたか (34-44 節)。

「イエス、尊い救い主は、病んだ魂やあらゆる種類の病気にかかった病人たちのやむことのない懇願に決して疲れを覚えることがないかのように見える。『イエスは舟から上がって大ぜいの群衆をごらんになり、飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで』(マルコ 6:34)。これは苦しんでいる人々にとって大きな意味があった。このお方は彼らと利害を共にされた。このお方は彼らの重荷をわかちあわれた。このお方は彼らの恐怖を感じられた。キリストの胸に痛みを覚える切なる同情があった。」(彼を知るために 47)

- c. 身体的にまた霊的に養われた後、イエスはどのようにご自身とご自分の弟子たちのために休息を備えられましたか (45, 46 節)。

3. 奉仕の道

a. 奉仕の道をキリストに従うことには、何が含まれていますか (マルコ 8:34)。

「愛された教師キリストは、『だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい』と言われる。しかし、『悪評を受けても、好評を博しても』このお方に従いなさい。最も困窮している人や友のない人の友となることによって、このお方に従いなさい。自己を忘れ、他の人々に善をなすために自己否定と自己犠牲の行為に豊かになることによって、このお方に従いなさい。ののしられても、ののしり返さず、墮落した人類のための愛と同情を表しなさい。このお方はご自分の命を大事だとは思わず、わたしたちのためにすべてを与えて下さった。低いまぶねから十字架までこのお方に従いなさい。このお方こそわたしたちの模範であられる。このお方は、もしあなたがご自分の弟子になりたいなら、十字架、すなわち蔑まれる十字架を負って、このお方に従わなければならない。あなたがたは、杯を飲み、バプテスマを受けることができるか。」(教会への証 2 巻 178)

b. イエスは、ご自分に従うことによって払われる値と、世俗的な利益をどのように比較されましたか (35-37 節)。

「人の魂の損失と、何を比べることができるだろうか。これはすべての魂が自分で決定しなければならない問題である。すなわち、永遠の命の宝を得るか、あるいは神とその義を自分の最初で唯一の事業とすることをなおざりにするゆえにすべてを失うかである。イエス、世の贖い主…はクリスチャンだと公言しながらご自分に仕えず、自分たち自身に仕えている数多くの人々を、悲しみを持ってご覧になっている。このお方が、二心のない愛情をもってご自分に仕える忠実な人々を待っている豊かな報いについて、彼らの注意を呼びかけているにもかかわらず、彼らは永遠の現実についてほとんど考えない。…

このお方は各個人が自分の責任を感じ、それによってこの世における自分の貴重な時間を日々よいわざに実り豊かとなるよう用いることを望んでおられる。神が自分に与えて下さった機能を、終わりのない結果を視野に入れて用いること—これだけがすべて生存している死すべき人間の価値ある目的である。」(彼を知るために 321)

c. わたしたちが神の召されるところではどこでも仕えるために、完全に神に自らを捧げるとき、このお方は何をわたしたちに保証して下さいますか (ルカ 22:35)。

4. 主人のみ足の跡に従う

- a. ヤコブとヨハネに関して、どのような要求がなされましたか。イエスの答えは何でしたか (マルコ 10:35-40)。

「神の国では、地位はえこひいきによって得られるのではない。それは功績によって得られるものでも、独断的にさづけられるものでもない。それは品性の結果である。王冠と王座はある状態に到達したことのしるしである。それは主イエス・キリストを通して自我を克服したことのしるしである。」(各時代の希望中巻 367)

- b. イエスはどのようにこの機会を用いて、世の王国とご自身の御国を比較なさいましたか (41-44 節)。

「真の幸福が見いだされるのは、奉仕の生涯においてのみである。無益で利己的な生涯を送る人はみじめである。彼は自分にも他のすべての人にも満足しない。主はご自分の働き人たちを訓練し、彼らが自分に任命された場所を占める準備ができるようになる。こうしてこのお方は彼らをもっと受け入れられる奉仕をなすのにふさわしい者にしようと望まれる。…」

神が自分のために計画された場所で快活にこのお方に仕えること、このお方が自分たちの手のうちにおいて下さった働きをつぶやかずに行うことに満足しない人々が多くいる。わたしたちが義務を行う方法に満足しないことは正しいことであるが、むしろ何か他のことをしたいと思って義務そのものに不満を持つてはならない。神はご自分のみ摂理のうちに人間の前に彼らの病んだ思いに対する薬となる奉仕をおいて下さる。こうして、このお方は彼らが利己的な好み、すなわち大事にもっていれば、ご自分が彼らのために用意された働きにふさわしくない者とするものを脇へ置くよう導こうとしておられる。」(天国で 229)

- c. イエスご自身の生涯は、どのようにこのお方がすべての人の最大の僕であられたことを証していますか (45 節)。

「キリストは、わたしたちの罪のゆえに、わたしたちから遠くへ離れて行かれることも可能であった。しかし、さらに遠くに行かれる代わりに、このお方は来て、満ち満ちた神の徳に満たされて、わたしたちと一つになるために、わたしたちの間に住まわれた。こうしてこのお方の恵みを通して、わたしたちが完全に到達できるためである。恥と苦悩の死によって、このお方はあがない代を支払われた。最高の卓越さから、このお方は来られて、ご自分の神性を人性でまとい、一步一步屈辱の最も低い深みまで下って来られた。このお方の愛の深さを測れるひはない。」(キリストを映して 17)

5. 主人がその生徒たちに仕える

- a. イエスは過越の時に、ご自分の弟子たちのために何をなさいましたか（ヨハネ 13:3-5）。

「弟子たちは天の御国ではだれが一番偉いだろうかと言い争っていた。彼らは同意できなかった。だれかが自分のための榮譽を主張すると、他の者が自分のために主張するのであった。弟子のうちだれ一人として、来たるべき出来事の重要性を理解したり、あるいは今現在の厳粛さを正しく評価するためにふさわしい考え方ができていなかった。彼らは過越の食事に参加する準備ができていなかった。

キリストは彼らを悲しげにご覧になった。このお方は、彼らの前に試練があることをご存知だった。そして、このお方の大いなる愛の心は、優しい哀れみと同情のうちに彼らを憐れまれた。彼らに対するこのお方の愛の表れとして、このお方は『上着を脱ぎ、手ぬぐいをとって腰に巻き、それから水をたらいに入れて、弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手ぬぐいでふき始められた』。これは彼らすべての者に対する最大の譴責であった。」（キリストを映して 261）

- b. このお方は彼らに、どの奉仕の教訓をお与えになりましたか（12-16 節）。

「へりくだりの儀式によって、わたしたちは印象深い教訓を教えられる。キリストはわたしたちに、へりくだって神の御前に歩む必要性、またこのお方がご自分の御子という賜物によってわたしたちのために何をなして下さったのかを自覚する必要性を示してこられた。キリストはご自分の弟子たちが最後の晩餐のときに与えられた謙遜についての教訓を決して忘れることはないことをご存じであった。ご自身に奉仕の中で最もへりくだったかたちを引き受けられることによって、このお方は彼らに与えるもつとも厳しい譴責をお与えになったのであった。」（同上）

個人的な復習問題

1. イエスがご自身の人としての必要よりも他の人々の必要を優先されたいくつかの方法をあげなさい。
2. イエスは今日、ご自分の働き人たちのために、どのように心をお用いになりますか。わたしたちが自らに過大な負担をかけると、どうなりますか。
3. 自己犠牲において実際にキリストに従うとは、何を意味していますか。
4. わたしたちは真の幸福を、どのように見いだすことができますか。わたしたちの手中に神がおいて下さった働きに、わたしたちはどのように反応すべきですか。
5. 過越の時のイエスの行動は、どのようにこのお方の弟子たちに対して最も強い譴責を与えましたか。

絶対的な献身への召し

「わたしがキリストにならう者であるように、あなたがたもわたしにならう者になりなさい。」(コリント第一 11:1)

「キリストははじめ数名を選ばれ、彼らにご自分に従うようお命じになった。それから、彼らは自分の親戚や知り合いを探しに出て行き、彼らをキリストのところに連れてきた。これが働く方法である。導き出されてしっかりと真理に定着した数人の魂は、最初の弟子たちのように、他の人々のための働き人となるであろう。」(キリストを反映して 245)

推奨文献： 福音宣伝者 (1915) 111-116

日曜日

11月8日

1. 召しを受け入れる

- a. イエスはご自分に従うよう、はじめにだれを召されましたか。また彼らの答えは何でしたか (マルコ 1:16-18)。

「イエスがペテロとその仲間たちに、ご自分に従うようにお命じになったとき、彼らはただちに自分の舟と網を後にした。これらの弟子たちの中には、生活を彼らに依存している友人たちがいた。しかし、彼らが救い主の招待を受けたとき、彼らは、わたしはどのように生活し、自分の家族を養ったら良いでしょうかと聞いて、ためらうことをしなかった。彼らは召しに従順であった。そして後にイエスが彼らに『わたしが財布も袋もくつも持たせずにあなたがたをつかわしたとき、何かこまったことがあったか』とおたずねになったとき、彼らは、『いいえ、何もありませんでした』と答えることができた。」(ルカ 22:35)。(福音宣伝者 113, 114)

- b. イエスがヤコブとヨハネを召されたとき、彼らは何をしていましたか。なぜわたしたちは彼らがこのお方の召しに応えた方法によって鼓舞されるべきなのですか (19, 20 節)。

「神は人々を、鋤やぶどう畑から召し、彼らをご自分の奉仕のうちに送り出される。ちょうどキリストが漁師たちを日ごとの職業から召されたのと同様である。…これらの献身した神の僕たちは最高の地位を求めず、自己否定と犠牲の道をキリストに従うのである。そして彼らは救い主に魂を勝ち取るのである。」(原稿 77-N No.760 11)

2. 奉仕の代価

- a. キリストに従う人々が福音を分け与えたとき、何が起こりましたか（マルコ 13:9, 12）。どのように歴史は繰り返しますか。

「預言者や使徒たちの歴史には、神に忠誠をつくした立派な模範がたくさんある。キリストの証人たちは、神のご命令にそむくより投獄や拷問や死に耐えてきた。ペテロとヨハネが残した記録は、福音の摂理の賜物の中で、他に劣らず英雄的である。このふたりを滅ぼそうと躍起になっていた人々の前に、二度目に立ったときも、ふたりの言葉や態度には何の恐れもためらいも認めることができなかった。」（患難から栄光へ上巻 82, 83）

「わたしたちがこのお方のみ名のために、議会や何千もの人々の前に連れて行かれ、そして各自が自分の信仰の理由を述べなければならない時が来るであろう。」（主は来られる 252）

- b. 他の人々の前で証をするために連れてこられるとき、わたしたちにはどの保証が与えられていますか（マルコ 13:11; マタイ 10:19）。

「キリストの僕たちは自分の信仰のための裁判へ連れて行かれたときに提示するための決まったスピーチを用意するのではなかった。彼らの準備は日々、自分たちの心に神のみ言葉の尊い真理を宝として蓄え、キリストの教えに養われ、そして祈りを通して自分たちの信仰を強めることを通して、なされるべきであった。そうすれば、裁判に連れてこられるとき、聖霊は、聞くために来ている人々の心に届くまでにその真理を思い起こさせて下さるのである。神は聖書の勤勉な研究によって得た知識を、それが必要とされているまさにその時に、彼らの記憶にひらめかせて下さるのである。」（わたしたちの高い召し 356）

- c. わたしたちはキリストのゆえにすべての人に憎まれるようになりますが、このお方はご自分に従うすべての人に、どの約束をしてされましたか（マルコ 13:13）。

「救いの計画は、意のままにつかんで、好きなように手放す子供の遊びではない。ついに勝利を得るようになるのは、堅実な目的であり、倦むことのない努力である。最後まで耐え忍ぶ人が、救われるのである。永遠の命と不死の報いを得るようになるのは、忍耐強く善を行い続ける人々である。」（教会への証 2 巻 101, 102）

3. 最も偉大な僕

- a. 世の罪のために、まもなくイエスはどの代価を払おうとしておられましたか（マルコ 9:31; 10:33, 34）。

「ガリラヤの旅では、キリストは、弟子たちの心を、ご自分の前にある場面のために備えさせようともう一度試みられた。イエスは、ご自分がエルサレムにのぼって死刑にされ、ふたたびよみがえられることを彼らに語られた。しかもイエスは、ご自分が敵の手に売り渡されるというふしぎで厳粛な知らせをつけ加えられた。」（各時代の希望中巻 206）

- b. イエスが、ご自分の将来の苦難について告げられたとき、弟子たちの反応は何でしたか（マルコ 9:32; 10:32）。

「弟子たちはいまでもまだイエスのことばがわかっていなかった。大きな悲しみの影が彼らの上に落ちかかったが、彼らの心には競争意識が宿っていた。彼らは王国ではだれが一番えらい者としてみられるだろうかということを互に論じた。」（同上）

- c. 彼らは、まだ自分たちがこのお方の御国の性質を理解していなかったことを、どのように表しましたか（マルコ 9:33-35）。

「だがイエスが、ご自分を待ち受けている事がらについてはっきり語られたにもかかわらず、まもなくエルサレムへ行くと言われたことから、王国が建てられようとしているのだという望みがもう一度明るくなった。このことから、だれが最高の地位を占めるかということが問題になったのであった。……

救い主は弟子たちをまわりに集めて、彼らに言われた、『だれでも一ばん先になろうと思うならば、一ばんあとになり、みんなに仕える者とならねばならない』（マルコ 9:35）。このことばの中には、弟子たちがとうてい理解することのできない厳粛さと強い印象があった。彼らはキリストが見通しておられたものを見ることができなかった。彼らはキリストの王国の性格がわかっていなかったのも、この無知が彼らの論争の表面的な原因であった。だが真の原因はもっと深いところにあった。……最高の地位を争うことは、天の世界に大争闘をひき起してキリストを死ぬために天からくだらせたその同じ精神の働きであった。」（同上 210, 211）

4. 奉仕の祝福

- a. ペテロのどの言葉が、弟子たちのなした約束の性質を示していましたか（マルコ 10:28）。

「ところがいまイエスは、これまでの生活をすててイエスと利害を共にするようにと彼らを召された。ペテロはすでに召しを受け入れていた。岸べにお着きになると、イエスはほかの三人に『わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう』とお命じになった（マタイ 4:19）。すぐに彼らはすべてをすててイエスに従った。」（各時代の希望上巻 308）

- b. 神はご自分のためにすべてを犠牲にする人々のために、何を備えておられますか（29, 30 節）。

「彼らに網と漁船をすてるように求める前に、イエスは、神が彼らの必要を満たしてくださるという保証をお与えになった。ペテロの舟を福音の働きのために用いたことは豊かに報いられた。『彼を呼び求めるすべての人を豊かに恵んで下さる』主は、『与えよ。そうすれば、自分にも与えられるであろう。人々はおし入れ、ゆすり入れ、あふれ出るまでに量をよくして、あなたがたのふところに入れてくれるであろう』と言われた（ローマ 10:12, ルカ 6:38）。このはかりをもって、主は弟子たちの奉仕に報いられた。主の奉仕に払われたすべての犠牲は『神の恵みの絶大な富』にしたがってつぐなわれるのである（エペソ 3:20; 2:7）（同上 308, 309）

「もしわたしたちが他の人々に善をなし、神に栄光を帰すために生きるのであれば、自分自身のことは考えず、世において人類を祝福し、自分が用いられることを求めるのである。そうすれば、わたしたちは『よくやった』との祝福を主人のくちびるから受けるようになる。…

わたしは、自分の同胞を益し、祝福し、また自分の贖い主を尊び、栄光を帰そうと努めて、目的のために生きる人々こそ、地上において真に幸福であることを見た。一方、落ち着きなく、満足せず、これを求め、あれを試し、幸福を見つけようと望んでいる人は、いつも失望してつぶやいている。その人はいつも欠乏していて、決して満足しない。なぜなら、彼が自分一人のためだけに生きているからである。善をなし、人生において自分の分を忠実に果たすことをあなたの目的としなさい。」（この日を神と共に 280）

「神はご自分の奉仕において、安逸、誉れ、あるいは富を約束しておられない。しかし、このお方は『迫害』と共に、すべての必要な祝福が、また来たるべき世において『永遠の命』がわたしたちのものであると保証してくださっている。ご自分の奉仕への完全な献身に満たないものは何一つ、キリストはお受け入れにならない。これがわたしたちが各自学ばなければならない教訓である。」（教会への証 5 巻 42）

5. 今日わたしたちへの召し

- a. 今日、生活上の具体的な召しは何であろうと、わたしたちの生活において、何が第一優先であるべきですか（マタイ 6:33）。

「わたしたちは、自分の品性と生活においてイエスの義が完成されるのを妨げるような事業や勤めにたずさわったり、あるいはそうした楽しみを求めたりしてはならない。わたしたちのすることは何であれ、主に対してするように心からしなければならぬ。」（祝福の山 122）

- b. 何がわたしたちの動機となるべきですか（コリント第二 5:14, 15）。

「自己がキリストのうちに没入するとき、真の愛が同時に湧き起こる。それは感情や衝動ではなく、聖化された意志の決意である。そこには感情にあるのではなく、心と魂と品性全体の変化にある。それは自己への死であり、神に生きることである。わたしたちの主であり救い主であられるお方がわたしたちに、自らをご自分に捧げるかとおたずねになる。自己を神に明け渡し、神がふさわしいと思われることに従事するために自らを捧げること、これがこのお方の要求なさるすべてである。わたしたちがこの明け渡しの地点に到達するまで、どこにいても幸せに、有益に、成功して働くことはない。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 6 巻 1100, 1101）

個人的な復習問題

1. 弟子たちは主人のための奉仕に召されたとき、どのように反応しましたか。神は今日ご自分の働き人たちのために、どのように必要を備えて下さいますか。
2. 神のための証人となる準備をするために、毎日、何ができますか。このお方はわたしたちの必要な時に、どのように支援して下さいますか。
3. イエスが、ご自分の苦難の光景のために弟子たちを準備しようとしておられたとき、彼らの間では何が起こっていましたか。なぜですか。
4. イエスが弟子たちに職業を離れるように求められる前に、彼らにどの保証を与えておられましたか。どのようにですか。このことから何を学ぶことができますか。
5. どのキャリアに進むか、あるいはどの活動に携わるかを決定するとき、わたしたちの標準は何であるべきですか

イエスが沈黙をお命じになったとき

「天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。……黙るに時があり、語るに時があり。」(伝道の書 3:1, 7 (後句))

「救い主は、決して極端に走られたことはなく、決して自制を失われたことはなく、決して良識という法則を犯されることはなかった。このお方はいつ語るべきか、いつ沈黙を守られるべきかをご存じであった。」(福音宣伝者 317)

推奨文献：ミストリー・オブ・ヒーリング 30-33, 42-45, 66-68

日曜日

11月15日

1. 悪鬼を追い出されるとき

- a. イエスは汚れた霊に対してどのように命じられましたか (マルコ 1:23-27; 3:11, 12)。これはこのお方の権威について、何を表していましたか。

「人々の注意はイエスからそれて、みことばをきかなかった。サタンが自分のとりこを会堂に入れた目的はここにあった。しかしイエスは悪鬼をいまして、『黙れ、この人から出ていけ』と言われた。『すると悪霊は彼を人なかに投げ倒し、傷は負わずに、その人から出て行った』(ルカ 4:35) ……」

試みの荒野でサタンを征服されたおかたはふたたび敵と顔をあわされた。悪鬼は自分のとりこに対する支配力を保つ ために全力をつくした。ここで退いたら、イエスを勝利させることになるだろう。苦しめられているその男は、自分の人間性を破壊した敵との戦いにいのちを失わねばならないかのようにみえた。しかし救い主は権威をもって語り、とりこを解放された。」(各時代の希望上巻 319, 320)

- b. イエスは、いかなる方法においても悪鬼たちと交わることを望まなかったことを、どのように表されましたか (ルカ 4:41 (傍注))。

2. いやされた人々への命令

- a. らい病であった人に、イエスはどのように応じられましたか。またこのお方は彼をいやされた後に、彼に何と言われましたか（マルコ 1:40-44）。それはなぜですか。

「もし祭司たちが、このらい病人がいやされた事実を知るなら、キリストに対する憎しみから、偽りの宣言をするかも知れなかった。イエスは公平な断定のなされることをお望みになった。そこでこの人に、いやされたことをだれにも話さないで、この奇跡のうわさがひろがらないうちに大急ぎでささげ物をもって宮に行きなさいとお命じになった。

祭司はこういうささげ物を受ける前にまず、ささげる人を検査し、全快したことを証明しなければならなかった。ところでこの診察がなされた。そしてこの癩病人に社会から去るように命じた祭司が、彼の回復したことを証明した。いやされた人は自分の家と社会に帰された。彼には健康の恵みが真にとうとく感じられ、男子の壮健を楽しみ、家族のもとに帰ることのできたことを喜んだ。そしてイエスの注意にもかかわらず、自分のいやされた事実をかくすことができず、うれしそうに行きめぐって自分を健康にしてくださったキリストの力をのべ伝えた。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 44, 45）

- b. ヤイロの娘をいやされた後、イエスはその後にどの命令をお与えになりましたか（マルコ 5:41-43; ヨハネ 5:2, 3, 8, 9）。なぜイエスは他には、いやすことすらなさろうとしなかったのですか。

「〔キリストは〕彼のいやしの力を働かせ、病人を皆なおしたいと切望なさった。しかしその日は安息日だった。たくさんの人が、礼拝のために宮に行くところだったから、そのようないやしのわざはユダヤ人の偏見をおこし、自分の働きを短縮することを知っておられた。」（同上 54）

- c. イエスが耳が聞こえず口のきけない人をいやされた後、このお方は何を要求なさいましたか。その結果は何でしたか（マルコ 7:31-36）。

「天を仰いで、真理に向かって開こうとしない耳と、あがない主を告白しようとし、舌を思つて、ため息をつかれた。『開けよ』』ということばに、この男は話することができるようになり、そして、だれにも言うてはならないとの命令を無視して、自分がいやされた話を言いひろめた。」（各時代の希望中巻 165, 166）

3. 他の人々への対照的な命令

- a. ガダラ人の国における人（あるいは他の福音書の描写では人々）の状態は、どのようなものでしたか（マルコ 5:1-5）。

「弟子たちやいっしょにいた者は恐れまどつて逃げたが、じきにイエスが自分たちといっしょにおられないことに気がつき、ふりかえつてイエスを捜した。するとイエスは元の所に立っておられる。あらしを静め、すでにサタンに会ってこれに勝利なされたキリストは、これらの悪鬼からお逃げにならなかった。気持ちがいが歯ざしりをして、あわをふきながらキリストに迫ったとき、彼は波を静めたその手をお上げになった。すると狂人はそれ以上近くに寄ることができなかった。彼らはキリストの前に立って狂いまわりながらも、イエスに対してどうすることもできなかった。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 66, 67）

- b. イエスが汚れた霊をいやされた後のその人を描写しなさい（15 節）。

「悪霊はその獲物を手ばなすように強制された。そこで驚くべき変化が狂人たちに起った。光が彼らの精神を照し、その目は知性に輝いた。長い間サタンの姿のように醜かった容貌も、突然やさしくなり、血に染んだ手も静かになって、これらの人たちは声をあげて神を賛美したのである。」（同上 37）

- c. イエスは時にはいやされた人々に沈黙するように命じられましたが、汚れた霊からいやされた人々には何と命じられましたか（19 節）。それは、なぜですか。

「〔いやされた狂人たち〕は、毎日キリストといっしょにいた弟子たちのように、人々を教えることはできなかった。……〔しかし〕彼らは知っていることを語ることができた。キリストの力について自分自身が目に見、耳に聞き、心に感じたことを語ることができた。これこそキリストの恵みにふれたことのある人ならだれでもできることである。……これこそ主が求めておられるあかしであって、このあかしが欠けているために、世の人々は滅びつつあるのである。（各時代の希望中巻 65, 66）

「キリストの恵みの力を感じてきた人には、語るべき物語がある。…人類は知恵の偉大な源からその力を引き出すとき、福音が思いと心に変化させる力を発揮する器、すなわち働く代理人とされる。」（彼を掲げよ 230）

4. ある人が沈黙を守らなかったとき

- a. イエスが沈黙するように要求された人々が反対のことをしたとき、どうなりましたか (マルコ 1:45; 3:9; 5:24; 6:31)。

「[いやされたい病人が] この出来事を言いふらした彼の行為は、結果においては救い主の働きをさまたげることになった。そのために、おびたしい群衆がイエスのもとに殺到し、イエスはしばらく働きをおやめにならねばならなかった。」(各時代の希望上巻 333)

- b. 群衆が非常に大きくなったとき、イエスは何をなさいましたか。それはなぜでしたか (マルコ 6:45, 46; マタイ 14:23)。

「終日キリストは自分の所に来る人々に奉仕し、夕方あるいは早朝、天父とまじわるために、山の聖所に行かれた。

キリストはたえまない働きとラビの敵意や偽りの教えとの戦いによって、全く疲れはて、彼の母や兄弟また弟子たちでさえも彼の生命が犠牲になりはしないかとおそれた。しかし、骨の折れる一日の終りに幾時間もの祈りをしてお帰りになるとき、そのみ顔には平安があり、新たな元氣と生命力が彼の全身にみなぎっているのに弟子たちは気づいた。彼は毎朝幾時間もひとりで神とまじわっては、天の光を人々にもたらされた。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング 31)

「他を益するために全く献身した生活を送られた救い主は、たえまない活動や人間の必要に応ずることから離れて、天父と何のさまたげもなくまじわる必要を感じられた。自分についてきた群衆が去ると、キリストは山に行ってただ神とのみまじわり、これらの罪深く貧しく苦しんでいる人々のためにその魂をそそぎだして祈られるのだった。」(同上 33)

- c. イエスはまた他になぜ、時にはどこでもご自分の名声を宣べ伝えることを望まなかったのですか (ヨハネ 7:6, 30; 8:20)。

「仮庵の祭りの時には、イエスは、ひそかに急いでエルサレムへ旅をされた。イエスの兄弟たちが、イエス、にメシヤとして公然と名乗り出るようにすすめたとき、イエスの答は『わたしの時はまだきていない』であった (ヨハネ 7: 6)。イエスは、人目につかずにエルサレムへ進み、先ぶれもなく、群衆からあがめられもしないで都へはいられた。」(各時代の希望中巻 283)

5. わたしたちが沈黙すべき時

- a. ソロモンは、わたしたちの言葉について、わたしたちに何と告げていますか（伝道の書 3:1, 7（後句））。キリストはこの助言をどのように実例を示されましたか。またわたしたちはどのように同じことができますか。

「キリストは人と真理の判断において、決して誤られたことがなかった。このお方は決して外見に欺かれなかった。このお方ははっきりと的を射たこと以外は決して質問を持ち出されなかった。このお方は適切で要点にあったこと以外は決して答えをお与えにならなかった。…救い主は、決して極端に走られたことはなく、どのような興奮の下でも自制や、思いの均衡を失われたことはなかった。このお方は良識という法則を犯されることはなく、いつ語るべきか、いつ沈黙を守られるべきかをご存じであった。」（彼を知るために 178）

「だれかが、思いを混乱させ、疑いの種を蒔くことしかない質問を投げかけるとき、彼らはそのような質問を差し控えるように助言されるべきである。わたしたちはいつ語り、いつ沈黙を守るべきかを学び、信仰の種を蒔き、闇ではなく光を与えることを学ばなければならない。」（教会への証 6 巻 69）

- b. 沈黙するのにふさわしい時である一種類の状況をあげなさい（箴言 27:2）。

「自己否定という意味は、…自分を称賛できるときに沈黙し、他の人々のくちびるによってあなたを称賛させることである。自己否定は、傾向が自分に仕え、自分を喜ばせようとするときに、他の人々に善をなすことである。」（同上 4 巻 521）

- c. イエスは人の子としてのご自身の生涯において、この原則を、どのように実例で示されましたか（ヨハネ 8:50（上句）；7:18）。

個人的な復習問題

1. キリストは、なぜ悪鬼に語ることを許されなかったのですか。
2. イエスはらい病人に、なぜ自分のいやしを告げないよう要求されたのですか。
3. なぜイエスはいやされた狂人に対しては反対の指示をお与えになったのですか。
4. イエスは何の理由で、ご自分の名声がどこへでも広まること望まれなかったのですか。
5. わたしたちにあるかもしれない問題に関して、いつ沈黙すべきですか。それはなぜですか。

だれがイエスを受け入れるか？

「よくよくあなたがたに言うておく。わたしがつかわす者を受けいれる者は、わたしを受けいれるのである。わたしを受けいれる者は、わたしをつかわされたかたを、受けいれるのである。」(ヨハネ 13:20)

「キリストを受け入れる人々は、自分たちのためのこのお方の愛とこのお方の屈辱と苦難、死の現われのうちに溶かされるのである。」(今日のわたしの生涯 77)

推奨文献： 教会への証 2 巻 679-681.

日曜日

11 月 22 日

1. 一般の人々が救い主を受け入れる

- a. 多くの人々のイエスとその奇跡に対する態度を述べなさい(マルコ 7:37; 5:42 (下句))。

「これほどの権威をもって語り、人々の思考をめざめさせ、奮発心を起こさせ、知、徳、体のあらゆる能力をよび起こした人はいまだかつてなかった。」(教育 82)

- b. イエスとその公生涯に、一般の人々は、どのように応じましたか(マルコ 12:37 (後句))。それはなぜですか。

「キリストは幼い子供の時からおとなしいやり方で他人に奉仕された。こうしたことがあったため、伝道の公生涯におはいりになったときには、大勢の人が喜んでその話をきくに至った。」(ミストリー・オブ・ヒーリング* 324)

「イエスの教え方は美しく、魅力的であった。そしてそれはいつも単純という特徴を帯びていた。このお方はご自分の聴衆になじみ深い典型や象徴を用いることによって天の御国の神秘を明らかにされた。そのため、一般の人々は喜んでこのお方のいうことを聞いた。なぜなら、彼らはこのお方の言葉が理解できたからである。」(クリスチャン教育 12)

2. み言葉を受け入れる

- a. 種まきの譬において、み言葉は何を象徴していますか (マルコ 4:14, 15)。種はどこに蒔かれますか。

「種は神のみ言葉であり、それを受け入れる魂は、朽ちる種からではなく、朽ちない種によって新しく生まれると言われる。それは永遠に生き、存続するのである。

...

み言葉という良い種は心の中に落ちて、すぐにクリスチャン経験の最初の発達が見られる。この経験は柔らかい芽や幼い子供に例えられている。芽は美しく、子供は魅力的であるが、それ以上の発達がなければ、わたしたちはその植物は成長を妨げられ、子供は発育を妨げられているとみなすであろう。若い改心者は、知識に進み、恵みに成長すべきである。キリストはご自分の子らをご覧になっておられ、種がどのように発達しているかに関して知らずにおられるのではない。」(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1893 年 3 月 27 日)

- b. 種が受け入れやすい心に蒔かれてきたことを示す三つの証拠は何ですか (20 節；ルカ 8:15)。

「良い地の聴衆は、『それを人間の言葉としてではなく、神の言として—事実そのとおりであるが』—受け入れた (テサロニケ第一 2:13)。聖書を自分に語りかける神のことばとして受け入れる人だけが真に学ぶ者である。彼は、みことばに強く心を打たれる、ことばは彼にとって生きた実在なのである。彼は、みことばを受け入れるために心を開いて理解しようとする。」(キリストの実物教訓 37)

「しばしば、神のみことばは、人間の先天的、あるいは後天的性質、または、社会の習慣などと衝突することがある。けれども、良い地という聴衆は、みことばを受け入れるときにそのいっさいの条件と要求とを受け入れるのである。そして、これまでの習慣や風習などを神のことばに従わせるのである。」(同上 38)

- c. キリストの言葉を守っているかどうかによって、わたしたちは何を表しますか。キリストはご自身の言葉について、何と言われますか (ヨハネ 14:23, 24)。

「わたしたちは、イエス・キリストに全く捕えられてしまう。もはや、ありきたりの利己的生活は送らなくなり、キリストがわたしたちの内に住んでくださる。イエスの品性がわたしたちの性質の中に再現される。このようにして、わたしたちは、聖霊の実を結び、『三十倍、六十倍、百倍』にもなるのである。(同上 40)

3. 救い主を畏れる

- a. 海での危険において、弟子たちの反応は、何でしたか。彼らは後でイエスをどのように見ましたか (マルコ 4:38-41)。

「弟子たちは一言もなく静まりかえった。ペテロさえ、自分の心を満たした畏敬の思いを口に出そうとはしなかった。」(各時代の希望中巻 59)

- b. イエスが宮を二度目に清められた後、祭司長たちは、イエスのことに関して、どのように感じましたか。彼らは次に何をすることを望みましたか (マルコ 11:18)。

「三年前に、宮の役人たちは、イエスの命令に逃げ出して恥をかいだ。それ以来彼らは、自分たちが恐れを感じたことと、ただひとりのいやしい人間に無条件に従ったことをふしぎに思っていた。こんな不面目な屈服をふたたびくりかえしてはならないと彼らは思っていた。ところが彼らは、今度は前よりももっと恐ろしくなり、もっとあわててイエスの命令に従ったのである。イエスの権威を疑う者はだれもなかった。祭司たちと商人たちは家畜を追い立てながら、イエスの前から逃げ出した。

……

しばらくして、祭司たちと役人たちは思いきって宮へもどってきた。あわてふためいた気持ちがすこし落ちついてくると、彼らはイエスが次にどんな行動をとられるかを知りたいという思いにとりつかれた。」(各時代の希望下巻 32)

「パリサイ人たちはすっかりまごつき、混乱した。彼らがおどかすことのできないおかたが指揮しておられた。イエスは宮の保護者としての立場をとられた。主はこれまでこのように堂々たる権威のある態度をとられたことがなかった。主のことばとわざにこれほど大きな力があつたことはこれまでになかった。主はエルサレムのいたるところでふしぎなわざを行なわれたが、これほど厳粛で印象的な態度をとられたことはなかった。主のふしぎなみわざを目撃した人々の前では、祭司たちと役人たちは、あえて主に公然たる敵意を見せようとしなかった。イエスの答に怒り、まごつきながらも、彼らはその日はそれ以上どうすることもできなかった。」(同上 34)

- c. 神はわたしたちがどのような方法で、ご自分を畏れることを望んでおられるかを説明しなさい (ヘブル 12:28)。

「わたしたちの語ることに、歌うことに、またあらゆる霊的な活動において、わたしたちは、すべての真の神の子を動かす落ち着きと尊厳と信心深い畏れを表すのである。」(レクティッド・メッセージ 3 巻 373)

4. 言葉なるイエスを拒む

- a. 若い役人に対するイエスの態度はどのようなものでしたか。役人の返答は何でしたか (マルコ 10:17-22)。

「キリストは、あたかもこの若者の生活を見通し、その品性をさぐられるかのように、彼の顔を見つめられた。イエスは、彼を愛され、彼の品性を実質的に変えるような平安と恵みとよろこびを与えたいと熱望された。

この若者のうちにへりくだって悔い改めた心が起り、彼が神にささぐべき最高の愛を意識し、その愛の足りないところをキリストの完全によっておおっていただくのを見たいと熱望された。」(各時代の希望中巻 327, 328)

「[イエスは] 人の救いのために、すべてを後に残された。そして、このお方は青年に来てご自分の模範をまねるよう嘆願し、彼に天に宝を積むようになることを保証された。青年の心は真に天に宝をもつようになるというこの保証を飛び上がって喜んだであろうか。ああ、そうではなかった!彼の地上の宝が彼の偶像であった。それらは永遠の嗣業という価値をさえぎってしまった。」(教会への証 2 巻 679)

- b. なぜ人々が神の言葉を拒むのか一般的な理由を挙げなさい (ヨハネ 8:47; 6:60)。

「[ある人々] は、キリストのためにうける恥辱に耐えることができない。神のことが、心に秘めた罪を指摘し、克己と犠牲を要求したりすると、彼らはつまずいてしまうのである。彼らの生活を徹底的に改革することは、あまりにも努力を要することなのである。彼らは、現在の不便や試練をながめて、永遠の実在のことを忘れてしまうのである。彼らは、イエスのもとを去っていった弟子たちと同じように、『これは、ひどい言葉だ。だれがそんなことを聞いておられようか』と言うのである (ヨハネ 6:60)。」(キリストの実物教訓 24, 25)

- c. 神のみ言葉を受け入れることを難しくするものは何ですか (マタイ 6:24)。

「キリストとの結合は、…わたしたちに何らかの代価を求める。…そこには付着の働きと同様に痛みを伴う分離の働きがなければならない。もしキリストとの結合にありたければ、誇り、利己心、虚無、世俗—あらゆる形態の罪—は克服されなければならない。多くの人々がクリスチャン経験を非常に嘆かわしいほど困難であることを見いだす理由、すなわち彼らが非常に移り気で変わりやすい理由は、彼らが自らをこれらの大事にしている偶像から離さないで、キリストに付着しようと試みるからである。」(信仰によってわたしは生きる 221)

5. あなたはキリストを受け入れるであろうか？

a. 今日、どの召しが、わたしたち一人ひとりにおとずれますか(ヨシュア 24:15)。

「キリストがまず最初に私たちをえらび、私たちのあがないのために、無限の価を払われた。真の信者は、すべてのものの中でキリストを最初のもの最後のものまた最上のものとして選ぶ。しかしこの結合に私たちは相当の代価を払わねばならない。それは高慢な人間がいらねばならない全く従属的な関係である。この結合を形成する者はすべて、キリストのあがないの血の必要を感じなければならない。彼らは心の変化を持たねばならない。彼らは自分自身の意志を神のみこころに従わせなければならない。」(青年への使命 112)

b. 神に従うという選択は、どこで始まりますか。またこの選択には何が伴いますか(箴言 23:26)。

「神はあなたにその心を与えるようお求めになる。あなたの力、あなたのタラント、あなたの愛情はみなこのお方に明け渡すべきである。こうしてこのお方があなたのうちにこのお方の喜ぶ願いを起こさせ、かつ実現に至らせて下さり、こうしてあなたを永遠の命にふさわしいものにして下さるためである。

キリストが心のうちに住まわれるとき、魂はこのお方の愛で、またこのお方との交わりの喜びで満たされて、このお方にすがりつくようになる。そしてこのお方を熟考するうちに、自己は忘れられる。キリストへの愛が行動の源泉となる。神の迫る愛を感じる人々は、神のご要求に応えるためにどれくらい少なくなすことができるかを尋ねることはない。彼らは最低の標準を求めず、自分の贖い主のみ旨に完全に調和することを目指すのである。」(今日のわたしの生涯 7)

個人的な復習問題

1. 人々は、なぜイエスの公生涯において、このお方の話を喜んで聞いたのですか。
2. 真に学ぶ者を述べなさい。何が彼らのすべての行動を支配しますか。
3. イエスが二度目に宮を清められた後、祭司や役人たちの気持ちはどうでしたか。
4. 民がイエスとそのみ言葉を拒む理由をいくつか挙げなさい。
5. わたしの自己の明け渡しは、どれくらい完全であるべきかを述べなさい。

第一安息日献金 アフリカの文書のために

文書のための第一安息日献金に対して捧げて下さった惜しみない献金と、神のみ恵みにより、アフリカには今二つの新しい印刷所があります。過去数年には、SDARM 世界総会は安息日聖書教科や他の印刷物の大きな貨物の船便で出し、高額な費用を被っていました。しかし、2020 年の最初の 2 期から始まり、アフリカにいるわたしたちの兄弟たちは祝福されて、これらの真理の詰まった資料を自分たち自身の大陸で印刷し、配布することができるようになりました。北アフリカ地域は、ルワンダでわたしたちの文書を印刷し、南アフリカ地域はアンゴラで印刷しています。



これは何という画期的なことでしょう!さらに追加的な支援により、これらの印刷施設はまもなく翻訳し、さらに多くの出版物をアフリカの地元の言語で創出できるようになります。

「多くの人々は真理を調べる用意ができています。なぜなら、神の御使たちが真理を受け入れるように彼らの心を準備してきたからである。出版物、すなわちもっとも率直に、もっとも単純な言葉で記され、命に関わる関心事の主題を説明し、世に來たるべき事柄を知らせる出版物が発行されなければならない。

地上の状態は、光が闇の上に輝くことを要求している。聖なる責任を委ねられてきた民は目覚めて、すべての相違、すべての嫉妬、妬み、誤解を捨て去って、断固とした勢力を持って働きに取りかからないであらうか。聖書の真理の教師だと主張している人々は、真理を受け入れる人々、反対に直面した経験のない人々を攻撃するであろう。そして彼らを偽りの言葉と狡猾な議論で圧倒しようとするであろう。この理由により、また同じく他の理由のために、教理を説明し、反対者の議論に応じる出版物をもつ必要がある。もし信仰に入る人々が、攻撃されている真理に対して明確に述べたものを持つことができれば、彼らは反対者に応ずる議論に対して武装でき、自らを防御できるであろう。自らを守ることに於いて、彼らは無意識のうちに真理の種を蒔いているのである。…神は重要な数々の真理に光を与えてこられた。そしてそれは世に伝えられなければならない。」(家庭伝道 1890 年 2 月 1 日)

アフリカの文書のために第一献金が集められるとき、どうぞ貴重な魂がこの終わりの時代の現代の真理のうちに防備を固めることができるように、惜しみない献金をお願いします!

世界総会出版支部

イエスがご自分の御国について語られる

「神の国は、見られるかたちで来るものではない。また『見よ、ここにある』『あそこにある』などとも言えない。神の国は、実にあなたがたのただ中にあるのだ」(ルカ 17:20, 21)

「神の国は心にはじまるのだ。神の国が来たことを表示する世俗的な権力の現れをここかしこさがし求めてはならない。」(各時代の希望中巻 310)

推奨文献： 各時代の希望中巻 190-196; 314-316

日曜日

11月29日

1. 救い主の苦難について初期の暗示

- a. ヨハネの弟子たちは、イエスに何を尋ねましたか。律法学者たちやパリサイ人たちは、どのようにしてこのお方を人の目に見くびらせようとしていましたか(マルコ 2:18)。

「[パリサイ人たちは] バプテスマのヨハネの弟子たちをさがし出して、救い主に反対させようと試みた。このパリサイ人たちは、バプテスマのヨハネの使命を信じていなかった。彼らはヨハネの節制生活、彼の単純な習慣、彼の粗末な衣服などを嘲笑的に指さして、彼を狂信者だと断言していた。……

いまイエスが人々の中にまじって、彼らの食卓で飲み食いされると、彼らはイエスのことを大食家だとか大酒飲みだとか言って攻撃した。このような攻撃をする彼ら自身こそやましいのであった。神についてまちがった解釈がなされ、サタン自身の特性が神に着せられるように、主の使者たちもこうした悪人たちによって曲解された。」(各時代の希望上巻 349, 350)

- b. イエスはどのようにこの機会を生かして、ご自分の苦難について預言されましたか(19, 20 節)。

「キリストのみことばは明るい光景をえがき出したが、その向こうには濃い影が落ちていて、イエスの御目だけがそれをみとめていた。」(同上 352)

2. 弟子たちに将来を明らかにされる

- a. イエスはどのように、将来をはっきりとご自分の弟子たちに明かされましたか（マルコ 8:31; 9:31）。
- b. ペテロの答えは何でしたか。弟子たちも全般にどうでしたか（マルコ 8:32; 9:32）。
- c. ご自分の御国に関する一般的な誤解を、イエスはどのように正そうとされましたか（ヨハネ 18:36）。多くの人々は、このお方の恵みの王国と将来の栄光の王国を、どのように混乱しましたか。

「今日、宗教界には、自分たちが信じる通りに、キリストのみ国を、この地上に、現世の支配権をもった国として建設するために働いている人たちが大勢いる。彼らは主イエスを、この世の王国の主権者、世の法廷、軍隊、議会、王宮、市場の主権者にしたいと望むのである。彼らは、主が人間の権威によって施行される法律を通して統治されるのを期待する。キリストがいまみずからこの地上におられないので、彼らは、キリストの代理をつとめ、キリストのみ国の律法を施行しようとする。このような国を建設することは、ユダヤ人がキリストの時代に希望したことである。もしキリストが、現世の主権を確立され、彼らが神の律法とみなしているものを施行され、彼らを神のみこころの解説者とし、神の権威の代理人とされる気があつたら、彼らはイエスを受け入れたのである。しかしキリストは、『わたしの国はこの世のものではない』と言われた（ヨハネ 18:36）。主はこの世の王座を受けようとしなかった。」（各時代の希望中巻 314, 315）

「いまも、キリストの時代と同じように、神の国の働きは、世の支配者たちにみとめられ、人間の法律によって支持されることをやかましく求める人たちの手にはなくて、受け入れる人々に、『わたしはキリストと共に十字架につけられた。生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである』とのパウロの経験をさせるような霊的真理を、キリストのみ名によって民に宣言する人たちの手にあるのである（ガラテヤ 2:19, 20）」（同上 316）

「わたしたちのうちの多くは、石切場から切り出された粗い石である。しかし、わたしたちは神の真理をつかむとき、その感化がわたしたちに及ぶ。それはわたしたちを高め、わたしたちからすべての不完全と罪を、それがどのような性質のものであっても、取り除く。こうしてわたしたちは王に、その麗しさにおいてまみえる準備ができ、ついには栄光の王国で純潔な天使たちと一致するのである。」（健康についての勧告 44）

3. 将来の栄光の王国の縮小版

- a. イエスはご自分の将来の御国を見ることについて、弟子たちに何と言われましたか(マルコ 9:1)。
- b. だれにこのお方の栄光の御国を垣間見させてもらいましたか。なぜでしたか(2-4, 7 節)。

「救い主は、弟子たちの重い心をごらんになって、彼らの信仰がむだではなかったのだという保証によってその悲しみをやわらげようと望まれた。十二人の弟子たちでさえ、全部の者が、イエスが与えようと望んでおられる啓示を受けることができるとはかぎらない。ゲッセマネの園でのイエスの苦しみを目撃する三人だけが、山の上でイエスといっしょにいるようにえられた。いまイエスの祈りの主題は、世がある前からイエスが父と共に持っておられた栄光のあらわれが彼らに示されるようにということ、またイエスのみ国が人間の目に示されるようにということ、そしてまた弟子たちがそれを目に見て強められるようにということである。イエスがたしかに神のみ子であって、その恥辱的な死は、あがないの計画の一部であるということを知ることによって、イエスの苦悶の絶頂の時に彼らに慰めが与えられるように、イエスの神性のあらわれを彼らの目に見せてくださるようにと、イエスは祈り求められる。

……

イエスは、『罪を負うためではなしに二度目に現れ』たもうときに見られるお姿と同じに天の光を着ておられた(ヘブル 9:28)。なぜなら、彼は『父の栄光のうちに聖なる御使たちと共に』こられるからである(マルコ 8:38)。弟子たちに対する救い主の約束はいま果された。山の上で、キリストを王とし、モーセをよみがえった聖徒たちの代表者とし、エリヤを天に移された人たちの代表者として、未来の栄光の王国が縮図で示されたのであった。

弟子たちはまだその光景を理解していないが、しかし彼らは、柔和で心のへりくだったおかたであり、無力な旅人としてあちらこちらを歩きまわられた忍耐強い教師であられるイエスが、天の愛された者たちからあがめられたことをよろこぶ。彼らは、エリヤがメシヤの統治を宣告するためにやってきて、キリストのみ国がこの地上に建てられようとしているのだと信じる。彼らは恐れと失望の思い出を永遠に追いかいたいと思う。……弟子たちは、モーセとエリヤが主を保護し、王としてのキリストの権威を確立するためにつかわされたのだと確信する。

しかし、王冠の前に十字架がこなければならぬ。」(各時代の希望中巻 191-194)

- c. 変貌に関して、イエスは弟子たちに何と命じられましたか。彼らの応答は、どのように彼らがこのお方の御国の性質を理解していないことを表していましたか(8-10 節)。

4. 恵みの御国の例証

- a. 種の成長は、どのように神の御国と関係しているかを述べなさい (マルコ 4:26-29)。

「〔キリストは〕別のたとえをお用いになって…魂の中に働く神の恵みのことに人びとの心を向けさせようとなさった。」(キリストの実物教訓 41)

「種の発芽は、霊的な生命の始まりをあらわし、植物の生長は、品性の向上にたとえられる。生命のあるころには 必ず生長がある。植物は、生長するか、それとも死ぬかのどちらかである。植物の生長と同様に、品性の成長も無言のうちに人目につかず、しかも絶えまなくつづけられる。…」(教育 112)

- b. 神の御国は、どのようにからし種と似ていますか (30-32 節)。

「キリストの王国も、最初のうちは、取るに足らない微々たるもののようには思われた。それを地上の国々に比較するならば、最も小さいもののように見えた。この世の支配者たちは、キリストの王権の主張をあざ笑った。しかし福音の王国の命は、キリストの弟子たちにゆだねられた偉大な真理の中にひそんでいた。しかも、その成長はなんと早く、その感化はなんと広い範囲にまで及んだことであろう。……

このように、人の心の中の恵みの働きも、初めは、小さいのである。わずか一つのことは、人の魂にさし込む一すじの光、といった感化が、新しい生命の出発になるのである。いったい、だれがその結果を測りしることができるであろうか。」(キリストの実物教訓 54, 55)

- c. み言葉の種がわたしたちのうちに成長する結果は何ですか (ヨハネ 15:5, 8; コリント第二 5:17)。

「神は、あなたを通して、ご自身の品性の聖潔、慈愛、あわれみをあらわそうと望まれる。しかし救い主は、弟子たちに、実を結ぶために骨折るようには命じられない。主はわたしにつながっていないと彼らに言われる。」(各時代の希望下巻 166)

5. 恵みの王国が設立される

- a. 神は、ご自分の恵みの王国を設立するために、どのように出て行こうとしておられましたか（ローマ 5:6-10）。

「恵みの王国は、人類の墮落後直ちに、罪を犯した人類の贖罪の計画がたてられた時に、設立された。それはその時、神のみ心のうちに、そして神のお約束のもとに存在していた。そして、信仰によって、人々はその国民となることができた。しかしそれは、キリストが亡くなられるまでは、実際に築かれなかった。救い主は、地上の伝道開始後においても、人類の強情さと忘恩にうみ疲れて、カルバリーの犠牲を避けることも可能であった。ゲッセマネにおいて、苦悶の杯は、彼の手中で震えた。彼は、そのときでも、額から血の汗をぬぐって、罪深い人類を、その罪惡のうちに滅びるままにしておくことがおできになった。もし彼がそうなされたならば、墮落した人類の贖罪はあり得なかったのである。しかし、救い主が、その生命をささげ、『すべてが終った』と叫んで息を引き取られた時、贖罪の計画の完成が確保された。エデンにおいて、罪を犯した二人に対してなされた救いの約束は、批准された。これまで神の約束によって存在していた恵みの王国が、この時、設立されたのである。」（各時代の大争闘下巻 40, 41）

- b. 恵みの王国への招きに、だれが含まれるべきですか。どれほど緊急に彼らは招かれるべきですか（ルカ 14:21-23）。

個人的な復習問題

1. 神の御国はどこで始まりますか。なぜ多くの人々は一時的な王国を期待するのですか。
2. 神の御国と世の王国の間には、どのような反対の諸原則が存在しますか。
3. 将来の御国が、どのように弟子たちのうちの3人に表されましたか。何の目的のためでしたか。
4. 恵みの王国は、種の生長と、どのように比較されますか。
5. 恵みの王国はいつ始まりましたか。それは、いつ確立されましたか。

御国へ導き入れる

「わたしたちは、わたしをつかわされたかたのわざを、昼の間にしなければならない。夜が来る。すると、だれも働けなくなる。」(ヨハネ 9:4)

「キリストの凱旋的なエルサレム入城は、天使たちの勝ち歌と聖徒たちのよろこびのうちにキリストが力と栄光をもって天の雲に乗ってこられるありさまをかすかに予表していた。」(各時代の希望下巻 17)

推奨文献： 各時代の希望中巻 349-354 下巻 1-7 28-35

日曜日

12月6日

1. すべての目的のための時

- a. イエスがご自分の生涯の働きをお考えになるとき、いつも何が念頭にありましたか。またそれはどのようにわたしたちに感化を及ぼすべきですか (ヨハネ 9:4; 4:34)。

「救い主の地上における生涯は、安楽な自己中心の生活ではなかった。かれは、たゆまず熱心に失われた人類の救いのために労された。馬槽からカルバリーに至るまで、かれは自己犠牲の道をたどり、至難なわざ困難な旅路など、いかなる労苦をも避けようとはなさらなかった。かれは『人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためでありまた多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである』(マタイ 20:28) と仰せになった。これがその生涯の大きな御目的で、その外のことは第二義的のもの、付随的のものであった。神のみ心をなし、神のみわざを成し遂げることは救い主の食物であり、飲み物であった。かれの働きのうちには、私心とか私欲とかは全く見られなかった。

そのように、キリストの恵みにあずかった人々は、喜んでどんな犠牲をも払いキリストがいのちを与えたもうた他の人々も天の賜物を受けることができるようにする。」(キリストへの道 105, 106)

- b. イエスはご自分の働きの時を短くするようなことをなすように頼まれたとき、どのようにお応えになりましたか (ヨハネ 7:6, 8)。

2. 最高の奇跡

- a. 神はイエスの最も近い友人の一人に、何が起こることを許されましたか。そしていつこのお方は彼に会いに行かれましたか (ヨハネ 11:14, 17)。

「もしキリストが病室におられたら、サタンはラザロに権力をふるうことができないので、ラザロは死ななかつたであろう。生命を与えるおかたであるイエスのおられるところでは、死は、ラザロをめがけて矢を放つことができなかったであろう。そこでキリストは離れておられた。主は敵に権力をふるわせておかれたが、それはご自分が敵を征服して撃退されるためであった。

もし主がラザロを病氣から健康へ回復されたら、イエスの神としての性格についての最も絶対的な証拠であるこの奇跡は行われなかつたのである。」(各時代の希望中巻 342)

- b. イエスは次に何をなさいましたか (38-44 節)。

「キリストは、石にそこをどきなさいとお命じになることもできたし、また石もその声に従つたであろう。キリストはご自分のそば近くの天使たちに石を取りのけるように命じることもおできになった。キリストのご命令に、目に見えない手が石を取りのけたであろう。しかしそれは人間の手で取りのけられねばならなかつた。こうしてキリストは、人は神と協力することを示そうと望まれた。人の力でできることには、神の力は呼び求められない。神は人の助けなしにはすまされない。神は人を強め、彼が自分に与えられている才能と能力とを用いるとき、その人と協力される。」(同上 351)

- c. 祭司たちや役人たちの反応は何でしたか (47-54 節)。

「ラザロのよみがえりを目撃した多くの者たちは、イエスを信ずるようになった。しかしイエスに対する祭司たちの憎しみはますます強くなった。……こうした理由のために、祭司たちの敵意はますます執念深いものとなった。彼らはキリストの働きをやめさせようと、これまで以上に固く決心した。

これまでサドカイ人たちは、キリストを殺す計画を奨励していなかつた。しかしラザロの復活後、彼らは、自分たちに対するキリストの大胆な非難をやめさせるには、キリストを殺すしかないと決心した。」(同上 355, 356)

「キリストの最高の奇跡—ラザロのよみがえり—は、世界からイエスとその驚くべきみわざを除こうとする祭司たちの決定を、既に変更できないものにした。それが民衆に対する祭司たちの影響を、速やかに打ちこわしつつあったからである。」(患難から栄光へ上巻 64)

3. なぜ勝利の入場か？

- a. イエスの最後のエルサレム入場のための準備を述べなさい (マルコ 11:1-10)。
- b. キリストが王として歓迎されることをお許しになったとき、どの旧約の預言が成就しましたか (イザヤ 62:10, 11; ゼカリヤ 9:9)。
- c. この出来事に対する民の反応は何でしたか (マタイ 21:10; ルカ 19:39)。これはイエスの将来にどのように影響しましたか。

「かつては目の見えなかった人々が、…まずすばらしい行列にいて道を案内した。…このお方が死人の中からよみがえらせた人が、このお方の乗る動物を導いた。かつては耳が聞こえず、物の言えなかった人が、開かれた耳と解かれた舌をもって、喜ばしいホザナが盛り上がるのに加わった。足の萎えた者が、軽快な足取りと感謝の心をもって今やもつとも活発にしゅろの枝をおって、それらを力強いやし主への敬意の賛辞としてこのお方の道へまき散らしていた。らい病人、すなわち祭司たちの『汚れた者』という恐ろしい言葉を聞いた者が、…そこにいた。…狂人がそこにいたが、今はサタンの力によるあわれな言葉が彼のくちびるから聞かれることはなかった。」(勝利者キリスト 253)

「過越節に集まった群衆の中から、幾千の人たちがイエスを歓迎するために出かけてくる。彼らはしゅろの枝をうちふり、聖歌をばく発させてイエスにあいさつする。宮の祭司たちは夕べの礼拝を知らせるラッパを吹き鳴らすのが、答える者はほとんどない。役人たちは驚いて、『世をあげて彼のあとを追って行ったではないか』とお互いに言う (ヨハネ 12:19)。

イエスは、ご自分の地上生涯において、それまでこのようなデモンストレーションをおゆるしにならなかった。イエスははっきりと結果を予見しておられた。それはイエスを十字架につけることになるのであった。……

この凱旋 (がいせん) 式に関連した出来事はすべての人々の話題になり、どの人の心にもイエスを思わせるのであった。イエスが十字架につけられたのち、多くの人たちが、イエスの裁判と死に関連してこれらの出来事を思い起こすのであった。彼らは預言を調べるようになり、イエスがメシヤであることをさとするのであった。そして全地において、この信仰に改宗する者がふえるのであった。」(各時代の希望下巻 5, 6)

4. 十字架へ向かう次の一歩

- a. イエスがエルサレムへ来られたとき、このお方がなさった最初のことの一つは、何でしたか(マルコ 11:15-17)。

「キリストは、公生涯の始めに、けがれた商売によって宮をけがしていた者たちを宮から追い出された。そのきびしい、威厳のある態度はずい商人たちの心に恐怖を与えた。公生涯のおわりに、主はもう一度宮にこられて、そこが前と同じようにけがされているのをごらんになった。事態は前よりもひどかった。……

イエスの憤激がわき起こった。イエスは、もうすぐ世の罪のために流されるご自分の血が、たえず流されている動物の血と同じように、祭司たちと長老たちからすこしも理解されないことをご存じであった。…

キリストは、すさまじい嵐のように民をゆすぶる力をもって語られた、『わたしの家は、すべての国民の祈の家となえられるべきである』と書いてあるではないか。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巢にしてしまった』(マルコ 11:17)。イエスの声はラッパのように宮じゅうに響きわたった。主のみ顔の不興は焼きつくす火のようにみえた。権威をもって、主は、『これらのものを持って、ここから出て行け』と命じられた(ヨハネ 2:16)。(各時代の希望下巻 28-32)

- b. 祭司たちの反応は、どうでしたか。なぜ彼らはこのように感じたのですか(18 節)。

「パリサイ人たちはすっかりまごつき、混乱した。彼らがおどかすことのできないおかたが指揮しておられた。イエスは宮の保護者としての立場をとられた。主はこれまでこのように堂々たる権威のある態度をとられたことがなかった。主のことばとわざにこれほど大きな力があつたことはこれまでになかった。主はエルサレムのいたるところでふしぎなわざを行なわれたが、これほど厳粛で印象的な態度をとられたことはなかった。主のふしぎなみわざを目撃した人々の前では、祭司たちと役人たちは、あえて主に公然たる敵意を見せようとしなかった。イエスの答に怒り、まごつきながらも、彼らはその日はそれ以上どうすることもできなかった。」(同上 34)

- c. このときは、さらなる衝突を避けるために、イエスは何をなさいましたか(19 節)。

5. イエスが再びご自分の死を預言される

- a. その後、イエスが人々に語られた譬を述べなさい (マルコ 12:1-11)。
- b. イスラエル人の指導者たちの反応は何でしたか。それはなぜですか (12 節)。

「こう言った人たちは、この譬の適用が最初わかっていなかったが、しかしま彼らは、自分自身の罪の宣告をくだしたことに気がついた。この譬の中で、家の主人は神を、ぶどう園はユダヤ国民を、かきは彼らの保護となっている神の律法をあらわしていた。やぐらは宮の象徴であった。ぶどう園の主人は、その繁栄のために必要ないっさいのことをした。『わたしが、ぶどう畑になした事のほかに、何かなすべきことがあるか』と彼は言っている (イザヤ書 5:4)。このように、イスラエルに対する神のたゆまない守りがあらわされた。そして、農夫たちがぶどう園の収穫のきまった一部を主人に返すべきであったように、神の民はその聖なる特権にふさわしい生活を送ることによって神をあがめるべきであった。しかし、わけ前を受け取るために主人からつかわされたしもべたちを農夫たちが殺してしまったように、ユダヤ人は、神が彼らに悔い改めを呼びかけるためにつかわされた預言者たちを殺してしまった。使者たちは次々に殺された。ここまでは譬の適用に疑問はなかったが、つづく話の中でもその適用はこれにおとらないほど明らかであった。ぶどう園の主人が不従順なしもべたちに最後につかわし、しかもしもべたちにとらえられて殺された愛する子のうちに、祭司たちと役人たちはイエスとそのさし迫った運命についてはっきりした描写を見たのであった。すでに彼らは天父が最後の訴えとして彼らに送られたおかたを殺す計画をたてていた。忘恩的な農夫たちの上に加えられた報復のうちに、キリストを死刑にする者たちの運命がえがかれていた。」(各時代の希望下巻 39, 40)

個人的な復習問題

1. イエスのご生涯の大目的は何でしたか。
2. ラザロのよみがえりは、どのようにこのお方の来たるべき御国を早めましたか。
3. どのように勝利の入場は、イエスの神性を魂に確信させましたか。
4. イエスが二度目に宮を清められた結果は何でしたか。
5. ぶどう園の譬を通して、祭司や役人たちに対して、どの明確な光景が提示されましたか。彼らはどのように反応しましたか。

友と敵に捨てられる

「弟子たちは皆イエスを見捨てて逃げ去った。」(マルコ 14:50)

「[神の御子は] 苦しみました。このお方は蔑まれ、拒まれ、悲しみの人で病を知っておられた。天の大君は、サタンがこのお方のかかとを砕くために、ご自分の労働の場面から何度も離れなければならなかった。そしてついに、このお方を十字架につけるためにサタンが邪悪な人々の思いを導き支配したときに、サタンの激しい憎悪は、最高の力にまで到達したのであった。」(勝利者キリスト 248)

推奨文献： 各時代の希望下巻 191-214

日曜日

12月13日

1. 友に裏切られる

a. ユダはどのようにイエスを裏切りましたか (マルコ 14:10, 11, 43-46)。

「ユダの場合が、すべての人のための教訓として、わたしに提示されてきた。ユダは、救い主の公生涯の間中ずっとキリストと共にいた。彼はキリストが彼にお与えになることのできるすべてをもっていた。彼が自分の能力を熱心な勤勉さをもって用いていたならば、彼はタラントを積み上げることができたことであろう。彼が、疑問を挟み、批判する利己的な人になる代わりに、祝福となることを求めていたなら、主は彼をご自分の御国を前進させるためにお用いになることがおできになったであろう。しかし、ユダは投機家であった。彼は自分が教会の資金を管理できると、そして彼の鋭さによって事業において利益を得られると思った。彼は二心であった。彼は世の称賛を愛した。彼は世をキリストのために捧げることが拒んだ。彼は自分の永遠の利益を決してキリストに委ねなかった。彼がもっていたのは表面的な宗教であった。そのために、彼は自分の主人に投機し、このお方はご自分が捕らえられることをお許しにはならないだろうと完全に思い込んで、このお方を祭司たちに売り渡したのである。」(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1101, 1102)

b. これはどのように預言されていましたか (詩篇 41:9)。

2. 親しい友にうち捨てられる

- a. イエスがご自分の弟子たちに、彼らがみなご自分のゆえにつまずくと言われたとき、ペテロは、何と言い張りましたか。イエスはさらにどのような洞察をお与えになりましたか (マルコ 14:27-31)。
- b. イエスの言葉はどのように成就しましたか (66-72 節)。

「ペテロは、イエスが売り渡されてからも、その後について行った。彼は、人々がイエスをどうしようとするのか見たかった。しかしペテロは、イエスの弟子のひとりであることをとがめられると、身の安全を計るために、自分はその男を知らないと言断した。イエスの弟子たちは、純潔なことばを使うので有名だったので、ペテロは、自分をとがめた者に、自分がキリストの弟子のひとりではないことをなっとくさせるために、三度目にはのろいと誓いのことばを吐いてその攻撃を否定した。」(初代文集 290)

「ペテロは、にわたりの鳴く声を聞いて、キリストのことばを思い起こし、自分がなんということをしたかに恐れおののいて振り返って、主の方を見た。ちょうどその瞬間、キリストもペテロをご覧になった。そしてそのまなざしは悲痛な表情ではあったが、そこにペテロに対するあわれみと愛とが混じっていた。ペテロは、それをさとして外に出て激しく泣いた。彼の心をくだいたのはキリストのそのときの表情であった。ペテロはここで人生の転換期に立っていた。そして彼は心から罪を悲しんで悔い改めた。彼は、取税人のように真心から悔い改めた。そして、取税人が受けたと同じ神のあわれみを受けたキリストのみ顔が、彼にゆるしの確証を与えたのである。」(キリストの実物教訓 133)

- c. 旧約聖書の著者たちは、この見捨てられる気持ちをどのように表現しましたか (詩篇 88:8 (上句); 69:8; ヨブ 19:13, 14)。なぜイエスはこれを許されたのですか。

「キリストが天の家を後にし、この地上に苦しみ死ぬために来られたのは、罪人を救うためであった。このために、このお方は、勞し、苦悩し、祈られたのであった。このお方は、ご自分が救うために来られた人々に心を砕かれ、捨てられるまで、カルバリーでご自分の命を注ぎ出された。」(きよめられた生涯 82)

「永遠の贖いの愛をのぞいては何一つ、キリストに天におけるご自分の誉れと大権をあとして、罪深い世に来るように、すなわちご自分が救うために来られた人々に無視され、蔑まれ、拒まれるために、そしてついには十字架上で苦しむために来るように説得することはできなかった。この愛は永遠に奥義であり続ける。」(教会への証 2 卷 207)

3. 人に蔑まれ、拒まれる

- a. キリストに不利な証をするために、祭司長につれてこられた証人たちに、何が起きましたか (マルコ 14:55-59)。

「イエスが反乱を扇動し、別な政府を作ろうとされたと訴えるために買収された人たちが、偽りの証人となった。しかし彼らの証言はばく然としていて、矛盾だらけであった。取り調べが進むうちに、彼らは自分たちの陳述の偽りを立証した。…」

キリストのことばは偽って伝えられた。もしキリストが話されたとおりに正確にこのことばが報告されたら、たとえサンヒドリンでもキリストを有罪にするわけにはゆかなかっただろう。」(各時代の希望下巻 199)

- b. ご自分がキリスト、神の御子であるかどうかを尋ねられたとき、イエスの答えは何でしたか。大祭司たちは、これらの言葉をどのように受け取りましたか (61-64節)。

「罪の自覚が怒りとまじって、カヤパはこのような行動に出たのであった。彼はキリストのことばを信じることに激しい怒りを覚え、真理の深い自覚のもとに自分の心を裂いてイエスがメシヤであることを告白しようとしなくて、断固たる抵抗のうちに祭司の衣を裂いた。この行為には深い意味があった。カヤパはその意味にすこしも気づいていなかった。裁判官たちに影響を及ぼしてキリストを有罪に定めるためになされたこの行為によって、大祭司は自分自身を罪に定めた。神の律法によって、彼は祭司職の資格を失った。彼は自分自身に死刑の宣告をくださったのであった。」(同上 202, 203)

- c. イエスの裁判において、イザヤの預言はどのように成就しましたか (イザヤ 53:3, 7)。

「一言でご自分を助けるために天使の軍団を招集おできになる方が、からかいや笑い、また罵倒や憎しみの対象となっておられるのを見よ。このお方はご自分を罪のための犠牲としてお与えになった。ののしられても、おびやかすことをせず、偽り訴えられたときに、口を開かれなかった。このお方は自分の殺人者たちのために、十字架上で祈られる。このお方は彼らのために死んで行かれるのであった。このお方は彼らの一人びとりのために無限の代価を支払っておられるのである。このお方はつぶやくことなく、人の罪の刑罰を負われる。そしてこのつぶやかない犠牲は、神の御子であられる。」(彼を掲げよ 233)

4. 人を喜ばせる者によって捨てられる

- a. イエスの沈黙に対するピラトの態度は、どのようなものでしたか（マルコ 15:2-5）。

「〔ピラト〕は、この囚人が政府に対して陰謀をくわだてたということを信じなかった。イエスの柔和なへりくだった様子はこの告発にまったく不似合いだった。ユダヤ人の高官たちの邪魔になっているこの罪なき人間を滅ぼすために根深い陰謀がめぐるされているということを、ピラトは確信した。イエスに向かって彼はたずねた、『あなたがユダヤ人の王であるか』救い主は、『そのとおりである』とお答えになった（マルコ 15:2）。こう言われたとき、イエスの顔つきはあたかも太陽の光線に照らされているかのように輝いた。」（各時代の希望下巻 232, 233）

- b. ピラトは、どのようにイエスを救おうとしましたか（6-11 節）。

「ピラト……はキリストの釈放に役立つかも知れない一つの慣例をいま思いついた。この祭の時に、民衆に選ばせて囚人をだれかひとり釈放するのが慣例となっていた。この習慣は異教の発明によるもので、その中には正義の影すらなかったが、ユダヤ人はこの習慣を非常に重んじていた。この時、ローマ当局は、死刑の宣告を受けたバラバという囚人を留置していた。……宗教的な熱心さという仮面のもとに、彼は反逆と残酷なことしか考えない強情で命知らずな悪人だった。この男と、罪のない救い主とのどちらかを選ばせることによって、ピラトは、人々のうちに正義感をめざめさせようと考えた。彼は民衆が祭司たちや役人たちに反対して、イエスに同情するようにしたいと望んだ。」（各時代の希望下巻 243, 244）

- c. ピラトはキリストが無実だと確信していたにもかかわらず、何をしましたか。それはなぜですか（12-15 節；マタイ 27:24）。

「ピラトはイエスを救出したいと切望した。しかし、彼は自分自身の地位と栄誉を維持しながら、そうすることはできないことがわかった。自分の世俗的な権力を失うより、彼は無実の命を犠牲にすることを選んだ。どれほど多くの人々が、損失と苦悩を逃れるために、同様に原則を犠牲にすることであろう。良心と義務は一つの道を指すが、自己の利益が他の道を指すのである。」（闘争と勇気 324）

5. 神は決してわたしたちをお捨てにならない

- a. イエスの人性は、このお方が死のうとしておられるときに、どのように現われましたか（マルコ 15:34）。キリストはどのようにこの捨てられたという感覚に打ち勝つことができましたか。

「恐ろしい暗黒のさなかに、神に見すてられたようにみえる中であって、キリストは人間の苦悩のさかずきを最後の一滴まで飲みほされた。その恐るべき時に、主は、ご自分が天父に受け入れられたことについて、これまで与えられていた証拠によりたのまれた。イエスは天父の性格をよく知っておられた。イエスは天父の正義、あわれみ、大きな愛をわかっておられた。父に従うことがイエスのよこびであったが、信仰によってイエスは父に信頼された。こうして、服従のうちにご自分をまったく神にまかせられたときに、天父の恩恵が失われたという意識はなくなった。信仰によってキリストは勝利者となられた。」（各時代の希望下巻 279）

- b. わたしたちは最も近く愛する人々から捨てられるかもしれませんが、神は何を約束しておられますか（詩篇 27:10; ヘブル 13:5（下句）；イザヤ 49:16）。

「主イエス・キリストに正しい道を一步一步導いていただくように信頼しなさい。あなたは一步一步進むごとに保証と力を引き出すことができる。なぜなら、あなたは自分の手がこのお方のみ手のうちにあることを保証してもらうことができるからである。あなたは『走っても疲れることなく』、『歩いても弱くはない』くいることができる。なぜなら、あなたは信仰によって自分の手がキリストの御手のうちにあることを自覚することができるからである。あなたは失望の下でも沈むことがない。なぜなら、あなたがせつに主を知ろうとして、このお方に信頼している限り、あなたは、ご自分に完全に信頼する者を決してお捨てになることのないお方が、絶えずあなたの助け手であられるという保証を得るからである。」（上を仰いで 320）

個人的な復習問題

1. ユダのどの特質が、彼の破滅となりましたか。
2. なぜペテロはキリストを拒むように導かれたのですか。
3. なぜキリストの言葉は偽りの証人たちによって、偽って述べられたのですか。
4. なぜピラトは無実な人が死ぬことを許したのですか。わたしたちもどのように似たような方法で行動する危険があるかも知れませんか。
5. イエスが、神に捨てられたと感じたときに、どのように平安を見いだされましたか。

砕かれ、その後よみがえった希望

「恐れることはない。あなたがたが十字架におかかりになったイエスを捜していることは、わたしにわかっているが、もうここにはおられない。かねて言われたとおりに、よみがえられたのである。」(マタイ 28:5, 6)

「望みなく、助けなき者のように嘆くな。イエスは生きておられ、彼が生きておられるがゆえにわれわれも生きるのである。感謝の心で、聖なる火にふれたくちびるで、キリストはよみがえられたとよろこばしい歌をひびかせなさい。主は生きてわれらのとりなしをしてくださる。この望みをとらえなさい。そうすれば、それはたしかな、あてになる錨(いかり)のようにわれらの魂をつなぎとめるであろう。」(各時代の希望下巻 329)

推奨文献： 各時代の希望下巻 257-281 309-319

日曜日

12月20日

1. 十字架を担う

- a. 民は、世の救い主、イエスをどのように扱いましたか(マルコ 15:16-20)。
- b. だれが、イエスの十字架を担いましたか(21 節)。この行為はどのように意味深いものでしたか(ルカ 14:27; ガラテヤ 6:2)。

「[キリストの] 迫害者たちは、これ以上イエスが重荷を運ぶことができないことを知った。彼らは、この屈辱的な荷を運んでくれる者をさがすのに困惑した。ユダヤ人自身がそうするわけにいかなかった。けがれると過越節を守ることができなくなるのであった。イエスのあとについてきたやじ馬連中さえ、恥を忍んで自分が十字架を運ぼうという者はひとりもいなかった。

この時、…クレネ人のシモンという他国人が群衆に行き会う。……彼は群衆の口汚いののしりの声を耳にする。……彼はその場の光景に驚いて立ちどまる。シモンが同情した顔つきをしていると、人々は彼をつかまえて、その肩に十字架をのせる。

シモンはイエスのことを聞いていた。彼の息子たちは救い主の信者であったが、彼自身は弟子ではなかった。カルバリーまで十字架をかついで行ったことは、シモンにとって恵みであった。彼はその後いつもこの摂理を感謝した。彼はこの経験から自ら進んでキリストの十字架を背負い、その重荷によろこんで耐えるようになった。」(各時代の希望下巻 258, 259)

2. イエスが預言を成就なさる

- a. だれがキリストのそばで十字架につけられましたか。このことによって、どのようにあらかじめ聖書で述べられていたことが成就しましたか（マルコ 15:27, 28; イザヤ 53:12）。

「待ちこがれる思いで、イエスは、弟子たちから何か信仰のことばを聞きたいと耳をすまされた。しかしイエスがお聞きになったのは、『わたしたちは、イスラエルを救うのはこの人であろうと、望みをかけていました』という悲しげなことばだけであった。（ルカ 24:21）。だから、この死にかかったどろぼうが口にした信仰と愛のことばは、救い主にとってどんなにうれしかったことだろう。有力なユダヤ人たちがイエスをこばみ、弟子たちさえイエスの神性を疑っているのに、このかわいそうなどろぼうは、永遠の門口に立って、イエスを主と呼んでいる。イエスが奇跡を行なわれた時や、墓からよみがえられたあとでは、多くの人たちがよこんでイエスを主と呼んだ。しかし十字架上で死にのぞんでおられるイエスを主と認めたのは、最後のまぎわに救われたこの悔い改めたどろぼうだけであった。…

イエスといっしょに十字架につけられたどろぼうたちは、『イエスをまん中にして、…… 両側に』つけられた（ヨハネ 19:18）。これは祭司たちと役人たちの指図であった。どろぼうたちの間のキリストの位置は、彼が三人の中で最も重い罪人であることを示すのであった。このようにして、彼は『とがある者と共に数えられた』との聖句が成就した（イザヤ書 53:12）。しかし祭司たちは自分たちの行為の意味が十分にわからなかった。イエスがどろぼうたちといっしょに十字架につけられて『まん中に』おかれたように、キリストの十字架は、罪のうちにある世のまん中に置かれた。」（各時代の希望下巻 270-272）

「人類の身代わりまた保証人としてのキリストの上に人類の不義が置かれた。人類を律法（おきて）ののろいから贖うために、キリストが罪人とされた。……罪を負いたもうキリストは、不義なる者として律法の罰を受け、人類のために罪そのものとなられたのである。」（生き残る人々 259, 260）

- b. 彼らはキリストを十字架につけたとき、このお方の衣をどうしましたか。これはダビデによって、どのようにあらかじめ述べられていましたか（マルコ 15:24; 詩篇 22:18）。

「十字架につけられる幾百年も前に、救い主はご自分が受けられる取り扱いを預言された。〔詩篇 22:16-18 引用〕。イエスの衣服についての預言は、十字架につけられたおかたの味方の側もしくは敵の側の助言や干渉なしに実行された。イエスを十字架につけた兵士たちに、イエスの衣服が与えられた。キリストは、彼らが仲間のあいだで衣服を分け合うときの言い争いを聞かれた。その下着は縫い日なしに一つに織ったものであったので、彼らは、『それを裂かないで、だれのものになるか、くじを引こう』と言った（ヨハネ 19:24）。」（同上 265）

3. イエスの最後の時間

- a. 自然は、その王が十字架上で死なれるとき、どのように反応しましたか（マルコ 15:33）。

「辱めの中に死に瀕しておられる創造主なるキリストのために、自然界の事物も同情を表した。太陽は恐ろしい場面を照らすのをこぼんだ。地を照らしていた真昼の太陽は、突然に光をかき消されてしまった。あたかも葬儀の黒布のように、まったくなやみが十字架とあたりの一面をおおった。くらやみは三時間もつづいた。おそろしい暗黒は三時になって人々の前から晴れたが、なお救い主を外套のようにつつんでいた。すさまじい電光が十字架上のキリストに向かってひらめいたように見えた。」（生き残る人々 260）

- b. イエスが死なれたとき、他にどのような超自然的なできごとがありましたか（37, 38 節, マタイ 27:50-53）。

「ちょうどイエスがなくなられた時、神殿の中では、聖所と至聖所の仕切りになっている幕の前で、祭司たちが奉仕していた。すると、突然、足元の地面が揺れたかと思うと、毎年新しくとりかえられる丈夫で豪華な布地でできた神殿の幕が、かつてベルシャザルの宮殿の壁に運命のこぼれを書きしるしたのと同じ血の気のない手によって、上から下まで真二つに裂かれた。」（生き残る人々 261）

「神殿の幕が裂けたことは、ユダヤ人の犠牲と儀式がもはや神に受け入れられなくなった証拠であった。大いなる犠牲であられるキリストがささげられて、神に受け入れられたのであった。そして、ペンテコステの日にくだった聖霊によって、弟子たちの心は地上の聖所から天の聖所へ向けられた。イエスはご自身の血によってそこへ入り、贖いの恩恵を弟子たちにそそがれるのであった。しかし、ユダヤ人は、真つ暗闇の中にとり残された。彼らは、救いの計画について光をもつことができるはずだったのに、それらの光を全部失って、依然として無用な犠牲とささげものに頼っていた。天の聖所が地上の聖所に代わったのに、彼らは、その変更について何も知らなかった。したがって彼らは、聖所におけるキリストの仲保によって、何の恩恵も受けることができなかった。」（初代文集 422）

「イエスが十字架につけられて、『すべてが終った』と叫ばれたとき、岩は裂け、地はふるい、墓のいくつかが開かれた。」（同上 312）

4. このお方はよみがえられた！

- a. だれが来て、イエスのために立派な埋葬を申し出ましたか。そして、彼は何をしましたか (マルコ 15:43, 46; マタイ 27:59, 60)。

「死んでおられても、キリストのおからだは弟子たちにとって非常に大切だった。彼らはイエスを手厚く葬りたいと願ったが、どうしたらそれを実現できるかわからなかった。…

この危急に、アリマタヤのヨセフとニコデモが弟子たちの助けに現われた。この人たちはふたりともサンヒドリンの議員でピラトを知っていた。ふたりとも富裕で勢力のある人たちだった。彼らはイエスのおからだをりっぱに埋葬しようと決心していた。

ヨセフは大胆にピラトのところへ行って、イエスのからだを引き渡してもらいたいとしたのだ。…

ヨセフの願いは許された。ヨハネが主の埋葬について心配していると、ヨセフがキリストのからだについてのピラトの命令をもって帰ってきた。またニコデモは、キリストのおからだの防腐処置のために、『没薬と沈香とをまぜたものを百斤ほど持ってきた』(ヨハネ 19:39)。エルサレムじゅうのどんなえらい人でも、死んでこれほどの尊敬を受けることはできなかったであろう。弟子たちは、こうした富裕な役人たちが、主の埋葬に自分たちと同じように関心をもっているのを見て驚いた。」(各時代の希望下巻 298-300)

- b. 安息日に休んでから、だれが日曜日の朝、真っ先に墓へ来ましたか。そして彼らは何を発見しましたか (マルコ 16:1-6; マタイ 28:5, 6)。

「女たちがそのあたりでうろうろしていると、突然彼女たちはそこにいるのが自分たちだけではないことがわかった。輝く衣を着た若者が墓のそばに腰をおろしていた。それは石をころがした天使であった。彼は、イエスの友だちを驚かさないように、人間の姿をとっていた。しかし彼のまわりには、まだ天の栄光の光が輝いていたので、女たちは恐れた。彼女たちは向きを変えて逃げようとしたが、天使のことが彼女たちの足をとどめた。『恐れることはない。あなたがたが十字架におかかになったイエスを捜していることは、わたしにわかっているが、もうここにはおられない。かねて言われたとおりに、よみがえられたのである。さあ、イエスが納められていた場所をごらん下さい。』」(同上 321)

- c. 彼らは次に何をすべきでしたか。彼らはどのように反応しましたが (マルコ 16:7, 8; マタイ 28:7, 8)。

5. キリストがご自分に従う者たちに権威を授けられる

- a. イエスはだれに現われましたか。また彼らの反応はどのようなものでしたか (マルコ 16:9-14; ルカ 24:13-15)。

「墓の中を見ていたマリヤがふりかえると、イエスが近くに立っておられるのが見えたが、しかしマリヤには、それがイエスであるとはわからなかった。イエスは、彼女がなぜ泣いているのか、まただれをさがしているのかと、優しくおたずねになった。マリヤはその人を園の番人だと思って、もしあなたがイエスを運び去ったのだったら、イエスをどこにおいたのか、自分がイエスをはこびたいからその場所を教えてほしいとたのんだ。イエスはご自身の天来の声で『マリヤよ』と言われた。マリヤは、そのなつかしい声の調子をよく知っていたので、すぐに『主よ』と答えて、よろこびのあまり、イエスにだきつこうとした。するとイエスは、『わたしにさわってはいけない。わたしは、まだ父のみもとに上っていないのだから。ただ、わたしの兄弟たちの所に行って、「わたしは、わたしの父またあなたがたの父であって、わたしの神またあなたがたの神であられるかたのみもとへ上って行く」と、彼らに伝えなさい』と言われた。マリヤはうれしい知らせをもって、大よろこびで弟子たちのもとへ急いだ。イエスは、神が犠牲を受け入れてくださったことを神の口からきき、天と地の一切の権力を受けるために、すぐに天父のもとへおのぼりになった。」(初代文集 317, 318)

- b. キリストに従う人々に、どの任務が与えられましたか。また彼らはどのように反応しましたか (15-18, 20 節)。

「天の光は、身分の高い者にも低い者にも、富める者にも貧しい者にも、地のすべての住民の上に、明るい強い光線となって輝くのであった。弟子たちは世を救う働きにあがないう主と共に働く者となるのであった。」(各時代の希望下巻 361)

個人的な復習問題

1. シモンにとって、十字架を担ったことが、どのように人生の転機でしたか。
2. なぜイエスはどろぼうたちの間に置かれたのですか。これはどのように預言を成就しましたか。
3. 自然は、この死につつある創始者に、どのように同情しましたか。
4. 神はどのようにイエスの埋葬のために備えをして下さいましたか。だれが援助のために全面に出てきましたか。
5. イエスが死人の中からよみがえられた後、何が第一の懸念事項でしたか。

第一安息日献金



10月3日

フランス・サヴィニー・シュロルジュ
の本部のために
(4ページ参照)

11月7日

モントリオールの礼拝堂
のために
(30ページ参照)



12月5日

アフリカの文書のために
(51ページ参照)

